

人権教育アンケート【小学校】

—自分を振り返って答えてみましょう—



【アンケートを行った日】

令和 年 月 日

広野（小・中）学校 () 年
名前 ()

次のアンケートに答えてください。答えるときは、次の2つのことに気をつけましょう。

- ① アンケートを読んで、「はい」と思った人は・・・・・・・・・・・・ 4
 「どちらかといえば、はい」と思った人は・・・ 3
 「どちらかといえば、いいえ」と思った人は・・・ 2
 「いいえ」と思った人は・・・・・・・・・・・・ 1
- ② 自分に当てはまる番号の□の中に一つだけ「○」をつけましょう。

どんな答えでも大丈夫です。自分の気持ちに一番あてはまる番号に○をつけましょう。

No.	アンケート内容	4	3	2	1
1	自分のよいところがわかり、自分のことを大切にしていますか。				
2	友だちのよいところがわかり、友だちのことを大切にしていますか。				
3	友だちや他の人の考え方をよく聞いて、その考え方を大切にしていますか。				
4	考え方や感じ方には、人それぞれ違いがあってよいと思いますか。				
5	友だちや他の人は、あなたの考え方をよく聞き、それを大切にしてくれますか。				
6	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。				
7	だれかが困っているときは、進んで助けていますか。				
8	友だちのよいところに学ぶところはありますか。				
9	友だちや家族、先生はあなたががんばったことを認めてくれますか。				
10	将来の夢や目標をもっていますか。				

じんけんきょういくあんけーと
人権教育アンケート【中学校】

—自分を振り返って答えてみましょう—



【アンケートを行った日】

れいわ
令和

ねん
年

がつ
月

にち
日

広野（小・中）学校

名前（
）

（　　）年

次のアンケートに答えてください。答えるときは、次の2つのことに気をつけましょう。

- | | |
|------------------------------------|---|
| ① アンケートを読んで、「はい」と思った人は・・・・・・・・・・・・ | 4 |
| 「どちらかといえば、はい」と思った人は・・・・ | 3 |
| 「どちらかといえば、いいえ」と思った人は・・・ | 2 |
| 「いいえ」と思った人は・・・・・・・・・・・・ | 1 |
| ② 自分に当てはまる番号の□の中に一つだけ「○」をつけましょう。 | |

どんな答えでも大丈夫です。自分の気持ちに一番あてはまる番号に○をつけましょう。

No.	アンケート内容	4	3	2	1
1	自分のよいところがわかり、自分のことを大切にしていますか。				
2	とも 友だちのよいところがわかり、友だちのことを大切にしていますか。				
3	友だちや他の人の考え方や立場を大切にしていますか。				
4	考え方や感じ方には、人それぞれ違いがあってよいと思いますか。				
5	友だちや他の人は、あなたの考え方や立場を大切にしてくれますか。				
6	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。				
7	だれかが困っているときは、進んで助けていますか。				
8	友だちのよいところに学ぶところはありますか。				
9	友だちや家族、先生はあなたががんばったことを認めてくれますか。				
10	将来の夢や目標をもっていますか。				

人権教育アンケート【教職員】

【実施日】 令和 年 月 日

【所 属】 広野（こども園・小学校・中学校）

このアンケートは、令和2年度人権教育推進指定事業を受け、教職員の児童生徒への働きかけについて調査し、児童生徒の調査との相関を検証するために実施します。1学期と3学期の2回実施しますので、現状で一番当てはまるものに○をつけてください。

先生方がありのままを表現しやすいように無記名としますが、本調査は推進指定事業を検証する際のエビデンスの一つになりますので、責任をもって回答いただきますようお願ひいたします。

【評価の観点】

- 「はい」と思った人は・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
「どちらかといえば、はい」と思った人は・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
「どちらかといえば、いいえ」と思った人は・・・・・・・・・・・・ 2
「いいえ」と思った人は・・・・・・・・・・・・ 1

No.	アンケート内容	4	3	2	1
1	子どもたちのよいところを認め、子どもの気持ちを大切にしていますか。				
2	子ども同士のかかわりのよさに気づき、それを広げようとしていますか。				
3	子どもたちの話をよく聞いて、その気持ちを理解しようとしていますか。				
4	考え方や感じ方には、ひと人それぞれちがいがあってよいと指導していますか。				
5	子どもたちの考えを大切にして、学級（学年）経営していますか。				
6	いじめは、どんな理由があっても決して許されないと指導していますか。				
7	他の人が困っている時は、互いに助け合うことが大切だと指導していますか。				
8	子ども同士が学び合える学級（学校園）づくりに努めていますか。				
9	子どもたちの頑張りを積極的に認め、声をかけていますか。				
10	将来の夢や目標の実現に向けて、子どもたちに具体的な話をしていますか。				

人権教育に関するアンケート（保護者用）

【アンケート記入日】 令和 3年 月 日

広野（こども園・小学校・中学校）
() 年

次のアンケートに答えてください。回答する際には以下の点にご留意ください。

- ① アンケートを読んで、「はい」と思った人は・・・・・・・・・・・・ 4
「どちらかといえば、はい」と思った人は・・・ 3
「どちらかといえば、いいえ」と思った人は・・・ 2
「いいえ」と思った人は・・・・・・・・・・・・ 1
- ② 自分に当てはまる番号の□の中に一つだけ「○」をつけてください。

No.	アンケート内容	4	3	2	1
1	お子さんのよいところが分かり、お子さんことを大切にしていますか。				
2	お子さんに、友だちのよさに気づかせ、相手の気持ちを大切にするよう伝えていますか。				
3	お子さんの話をよく聞いて、その気持ちを理解しようとしていますか。				
4	考え方や感じ方には、人それぞれ違いがあってよいと伝えていますか。				
5	家庭では、お子さんの考え方や立場を大切にしていますか。				
6	いじめは、どんな理由があっても決して許されないとお子さんに伝えていますか。				
7	他の人が困っている時、互いに助け合うことが大切だとお子さんに伝えていますか。				
8	友だちと学んだり、一緒に活動したりするよさをお子さんに伝えていますか。				
9	お子さんがんばりを積極的に認め、声をかけていますか。				
10	お子さんの将来の夢や目標の実現に向けて、前向きに話すようにしていますか。				

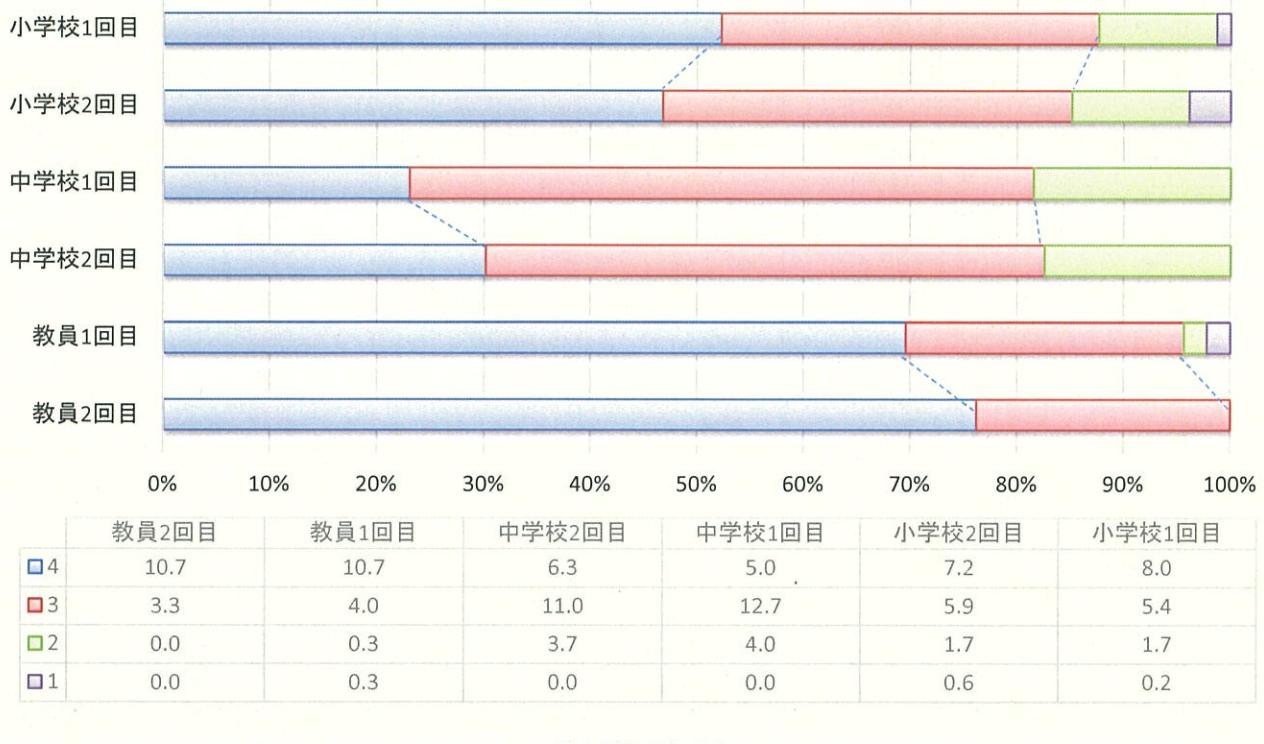
ご回答ありがとうございました。集計結果については後日お知らせいたします。

広野小・中学校・町立学校園教職員 アンケート結果（令和2年6月、12月実施）

4…あてはまる 3…どちらかと言えばあてはまる 2…どちらかと言えばあてはまらない 1…あてはまらない

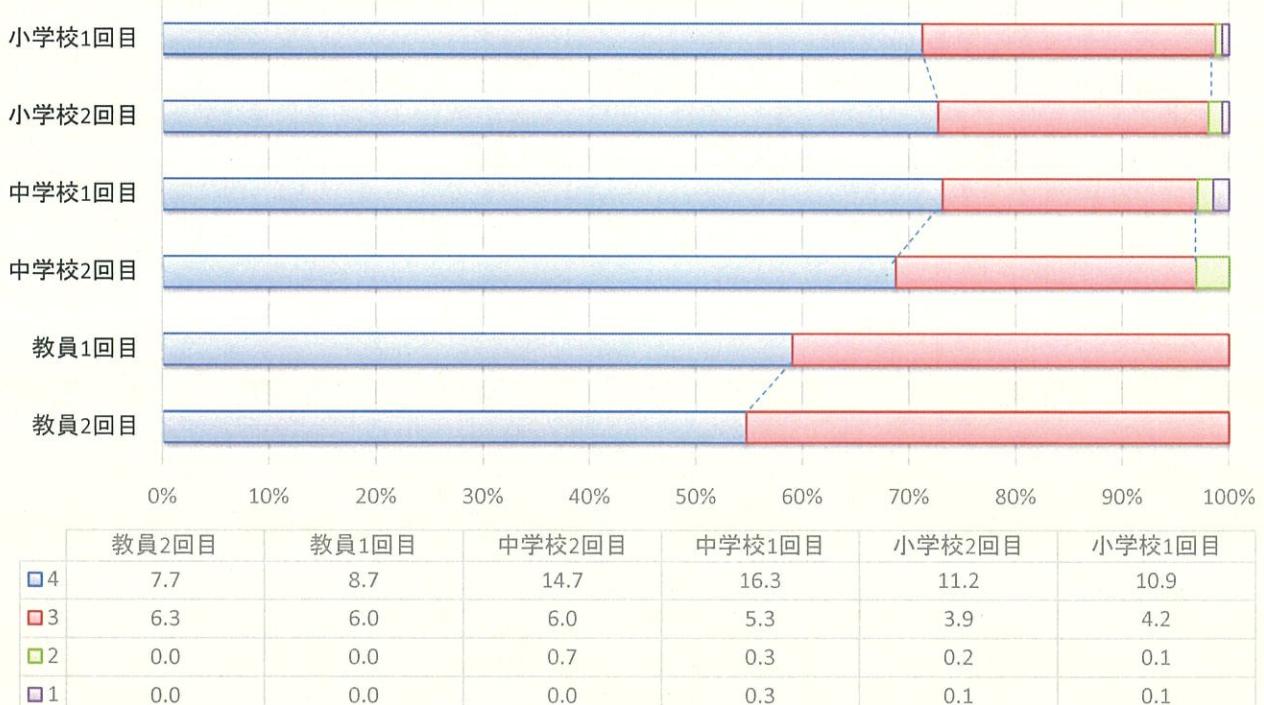
No.1 自分のよさ

自分のよいところがわかり、自分を大切にしていますか。
子どもたちのよいところを認め、子どもの気持ちを大切にしていますか。



No.2 友だちのよさ

友だちのよいところがわかり、友だちを大切にしていますか。
子ども同士のかかわりのよさに気づき、それを広げようとしていますか。



No.3 他者の考え方の尊重

友だちや他の人の考え方をよく聞いて、その考え方を大切にしていますか。
子どもたちの話をよく聞いて、その気持ちを理解しようとしていますか。

小学校1回目



小学校2回目



中学校1回目



中学校2回目



教員1回目



教員2回目



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

	教員2回目	教員1回目	中学校2回目	中学校1回目	小学校2回目	小学校1回目
□4	10.0	10.0	14.7	14.3	8.3	7.9
□3	4.0	4.7	6.3	6.3	6.1	6.6
□2	0.3	0.0	0.3	1.3	0.9	0.8
□1	0.3	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0

□4 □3 □2 □1

No.4 多様性の承認

考え方や感じ方には、人それぞれ違いがあってよいと思いますか。

考え方や感じ方には、人それぞれ違いがあってよいと指導していますか。

小学校1回目



小学校2回目



中学校1回目



中学校2回目



教員1回目



教員2回目



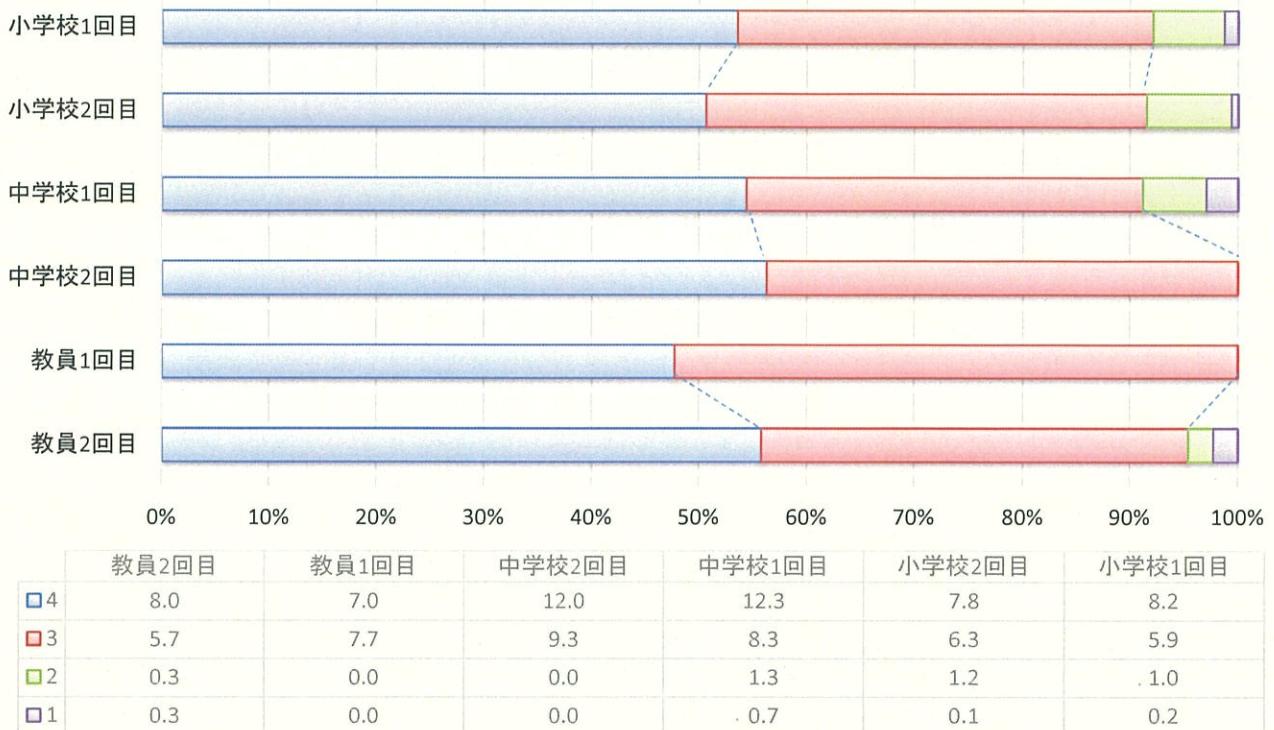
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

	教員2回目	教員1回目	中学校2回目	中学校1回目	小学校2回目	小学校1回目
□4	11.0	10.7	16.0	17.7	12.2	11.4
□3	3.0	4.0	5.0	4.3	2.9	3.6
□2	0.3	0.0	0.3	0.0	0.1	0.3
□1	0.3	0.3	0.0	0.0	0.2	0.0

□4 □3 □2 □1

No.5 他者からの受容

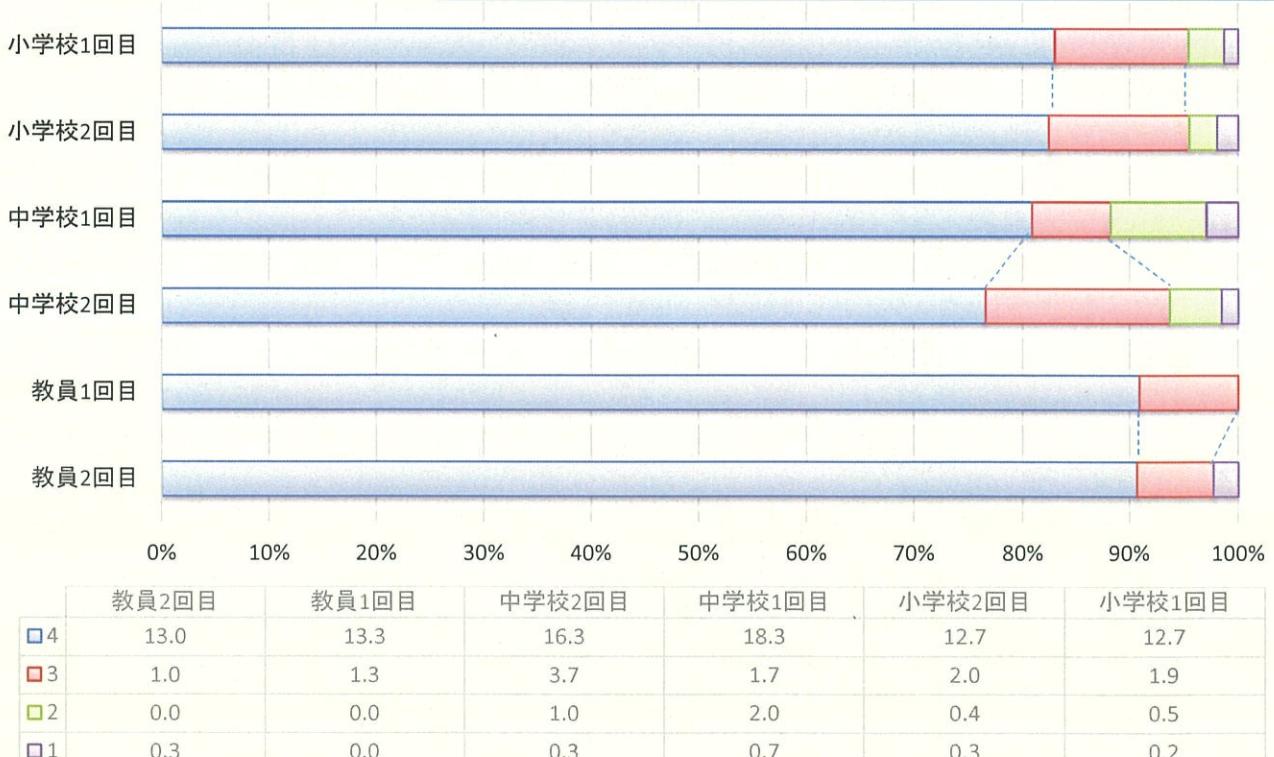
友だちや他の人は、あなたの考えをよく聞き、それを大切にしてくれますか。
子どもたちの考え方を大切にして、学級（学年）経営していますか。



□4 □3 □2 □1

No.6 いじめの理解

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
いじめは、どんな理由があっても決して許されないと指導していますか。

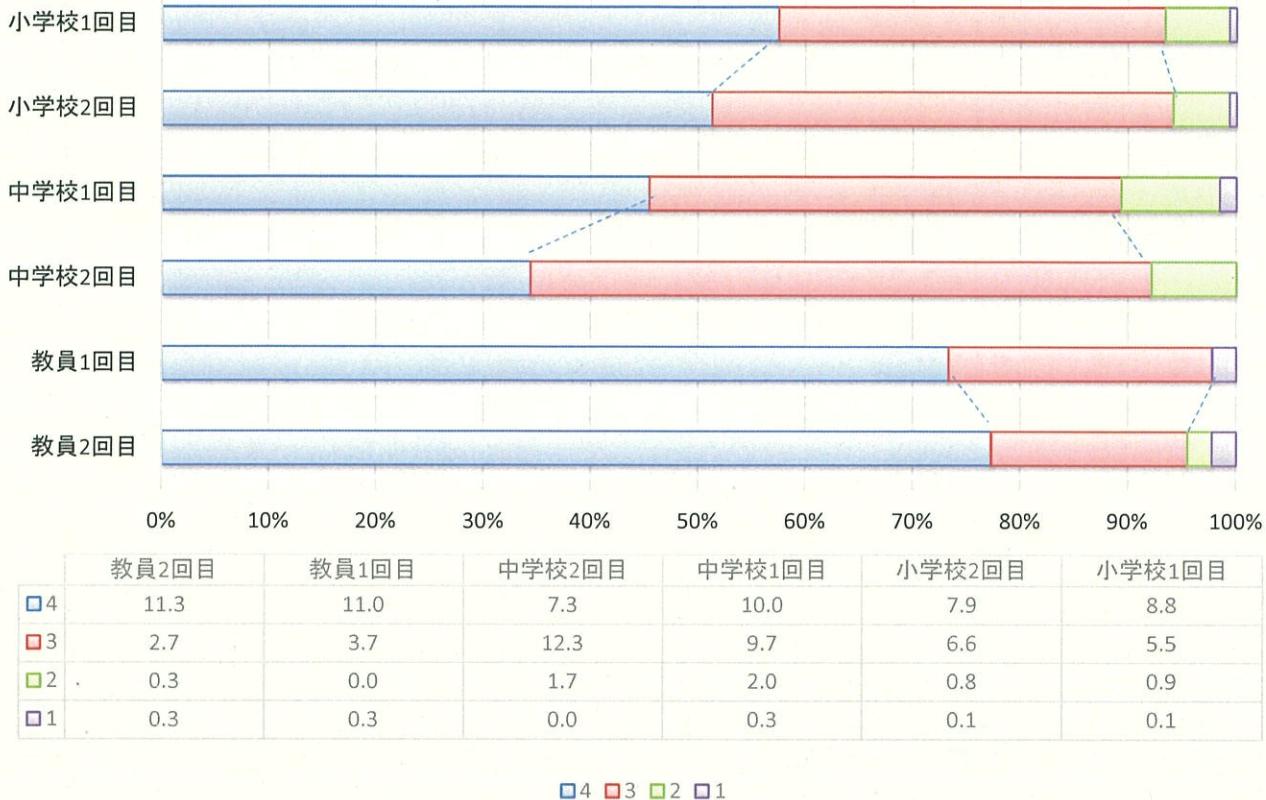


□4 □3 □2 □1

No.7 他者への手助け

だれかが困っているときは、進んで助けていますか。

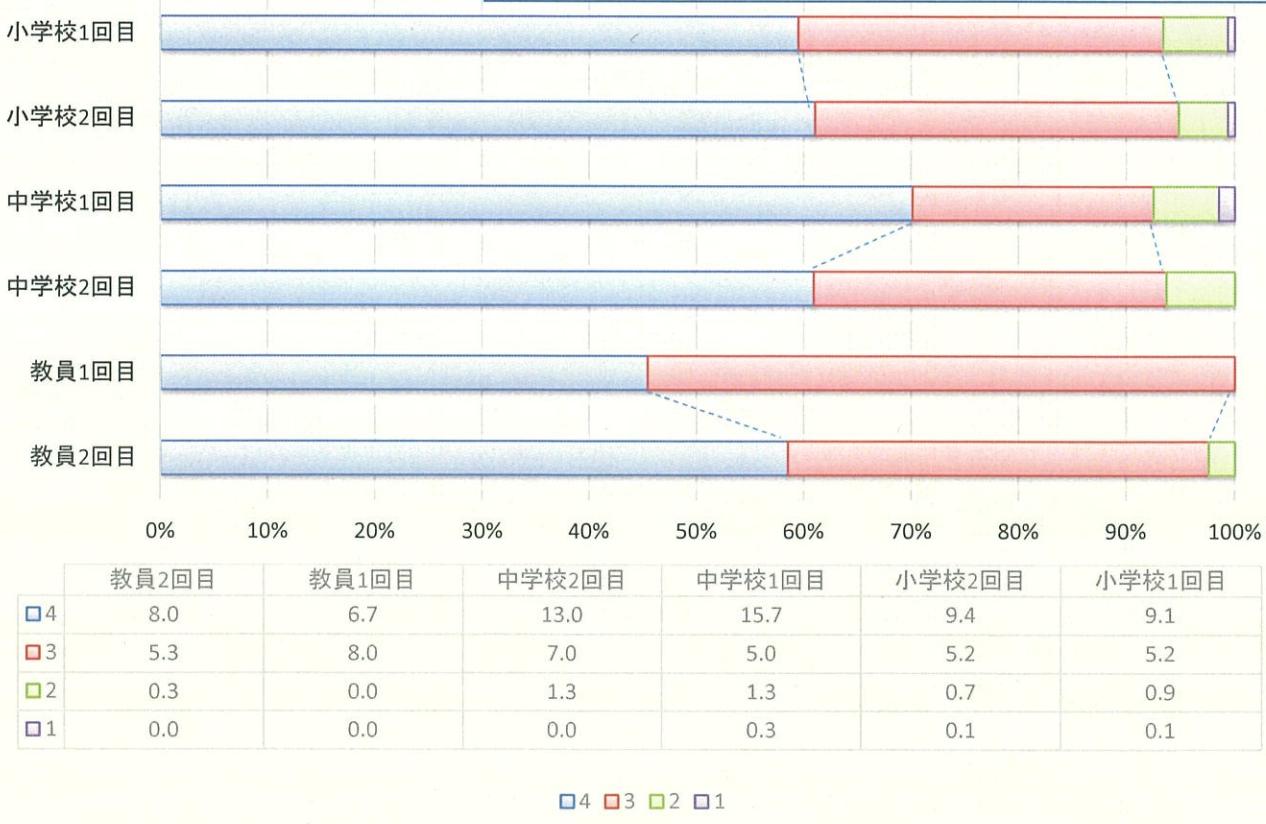
他の人が困っている時は、互いに助け合うことが大切だと指導していますか。



No.8 他者からの学び

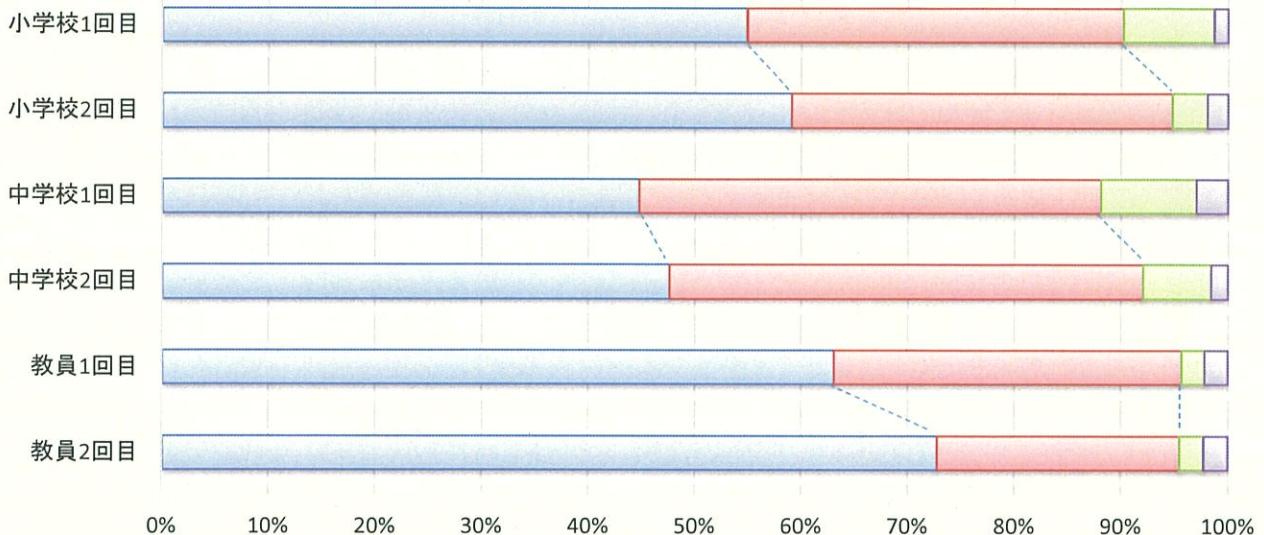
友だちのよいところに学ぶところはありますか。

子ども同士が学び合える学級（学校園）づくりに努めていますか。



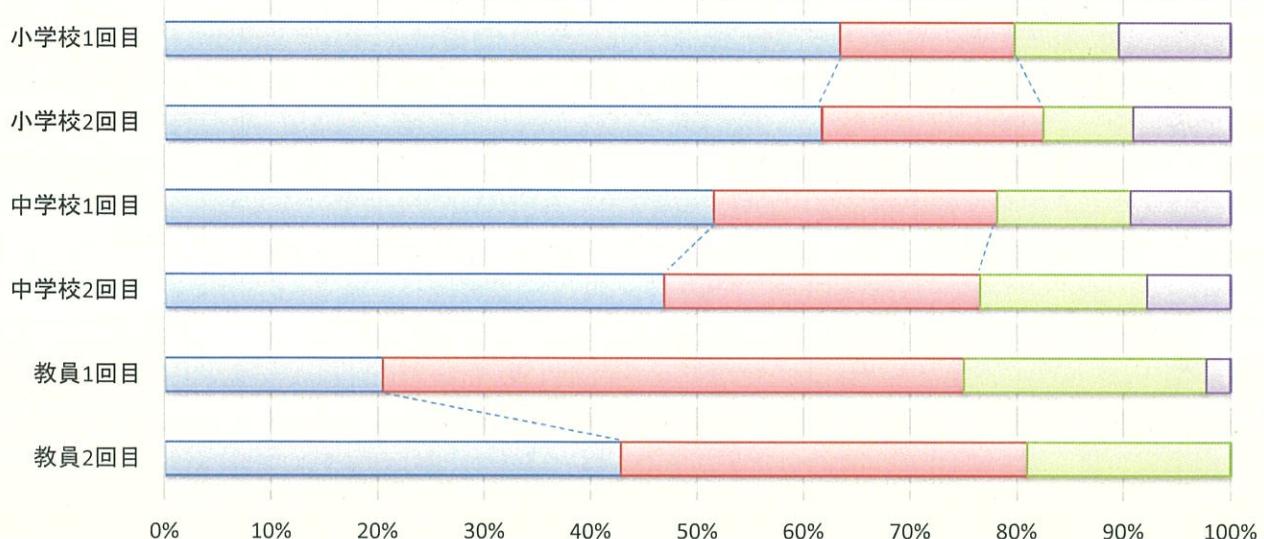
No.9 他者からの承認

友だちや家族、先生はあなたががんばったことを認めてくれますか。
子どもたちの頑張りを積極的に認め、称賛していますか。



No.10 将来への展望

将来の夢や目標をもっていますか。
将来の夢や目標の実現に向けて、子どもたちに具体的な話をしていますか。



	教員2回目	教員1回目	中学校2回目	中学校1回目	小学校2回目	小学校1回目
□4	6.0	3.0	10.0	11.0	9.5	9.7
□3	5.3	8.0	6.3	5.7	3.2	2.5
□2	2.7	3.3	3.3	2.7	1.3	1.5
□1	0.0	0.3	1.7	2.0	1.4	1.6

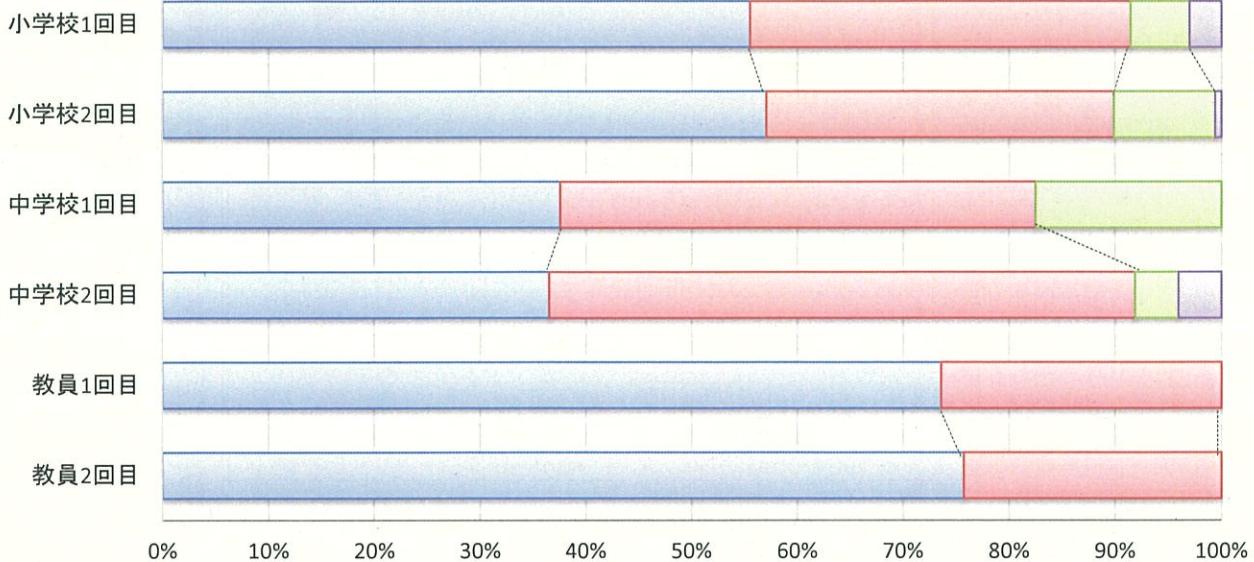
□4 □3 □2 □1

別添資料1 広野小・中学校・町立学校園教職員 アンケート結果（6月、12月実施）

4…あてはまる 3…どちらかと言えばあてはまる 2…どちらかと言えばあてはまらない 1…あてはまらない

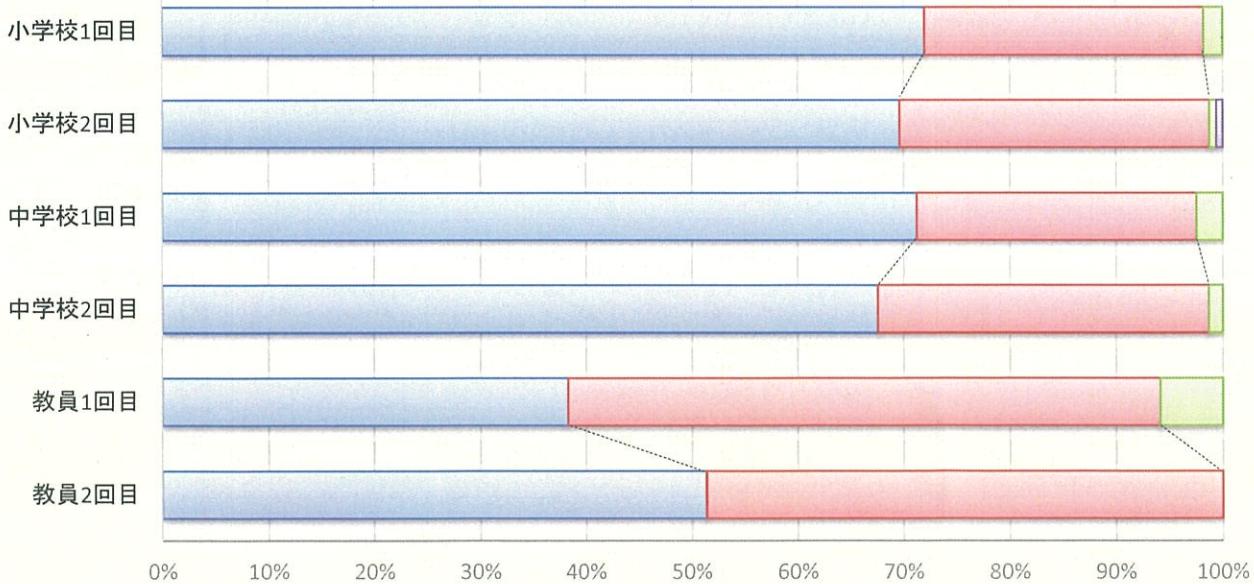
No.1 自分のよさ

自分のよいところがわかり、自分を大切にしていますか。
子どもたちのよいところを認め、子どもの気持ちを大切にしていますか。



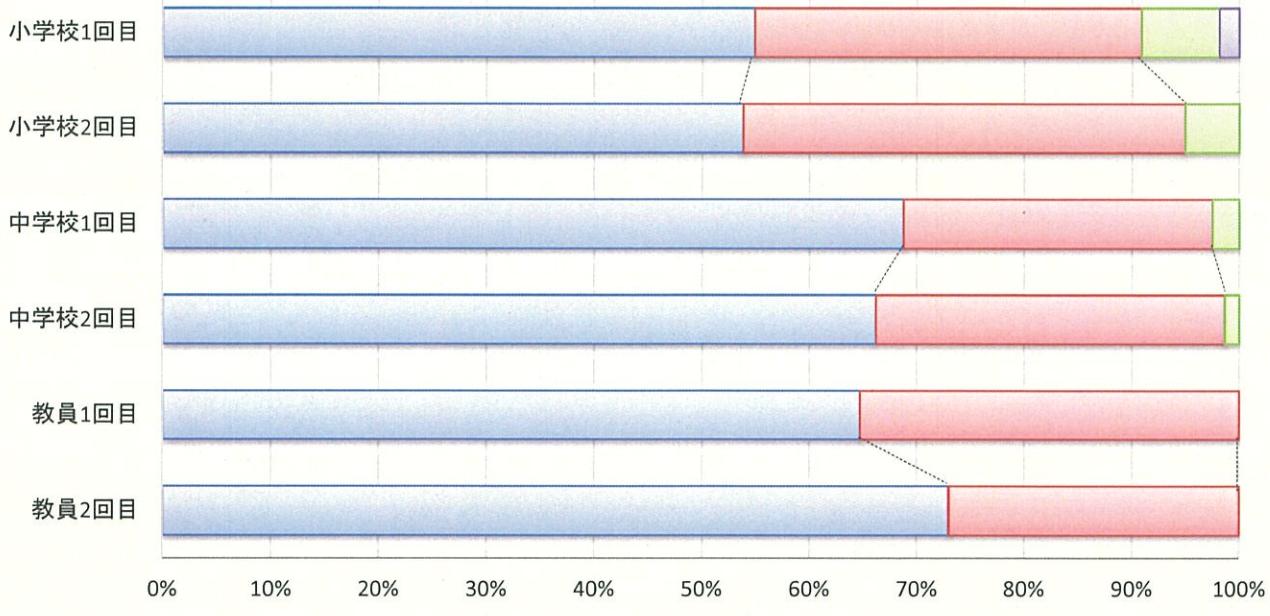
No.2 友だちのよさ

友だちのよいところがわかり、友だちを大切にしていますか。
子ども同士のかかわりのよさに気づき、それを広げようとしていますか。



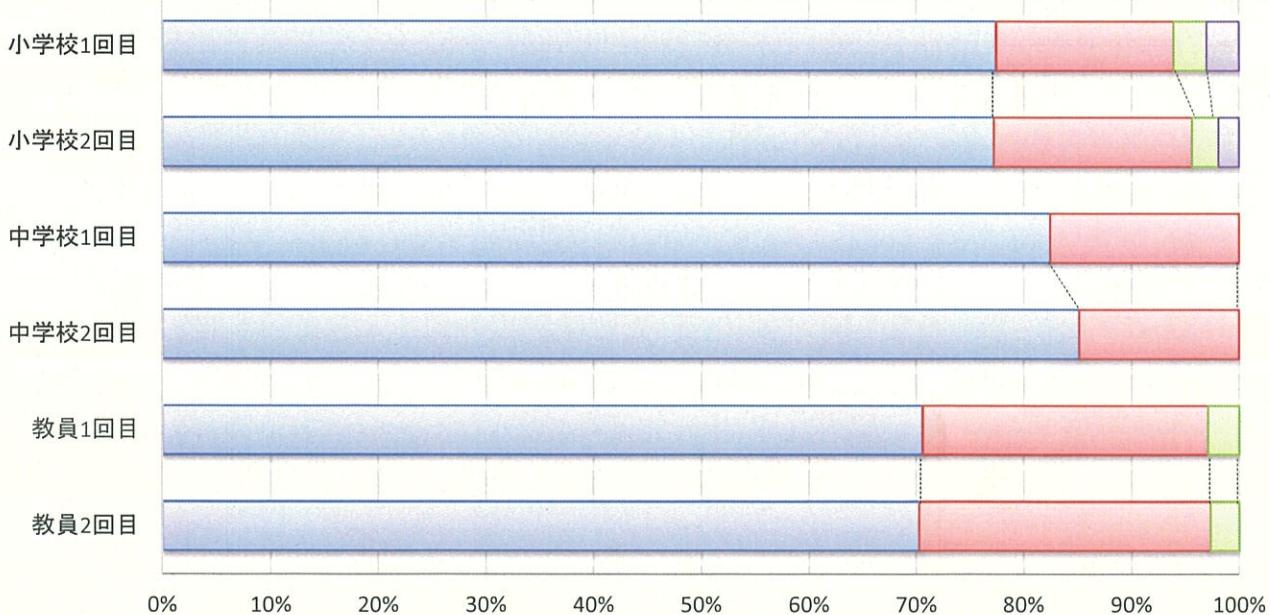
No.3 他者の考え方の尊重

友だちや他の人の考えをよく聞いて、その考え方を大切にしていますか。
子どもたちの話をよく聞いて、その気持ちを理解しようとしていますか。



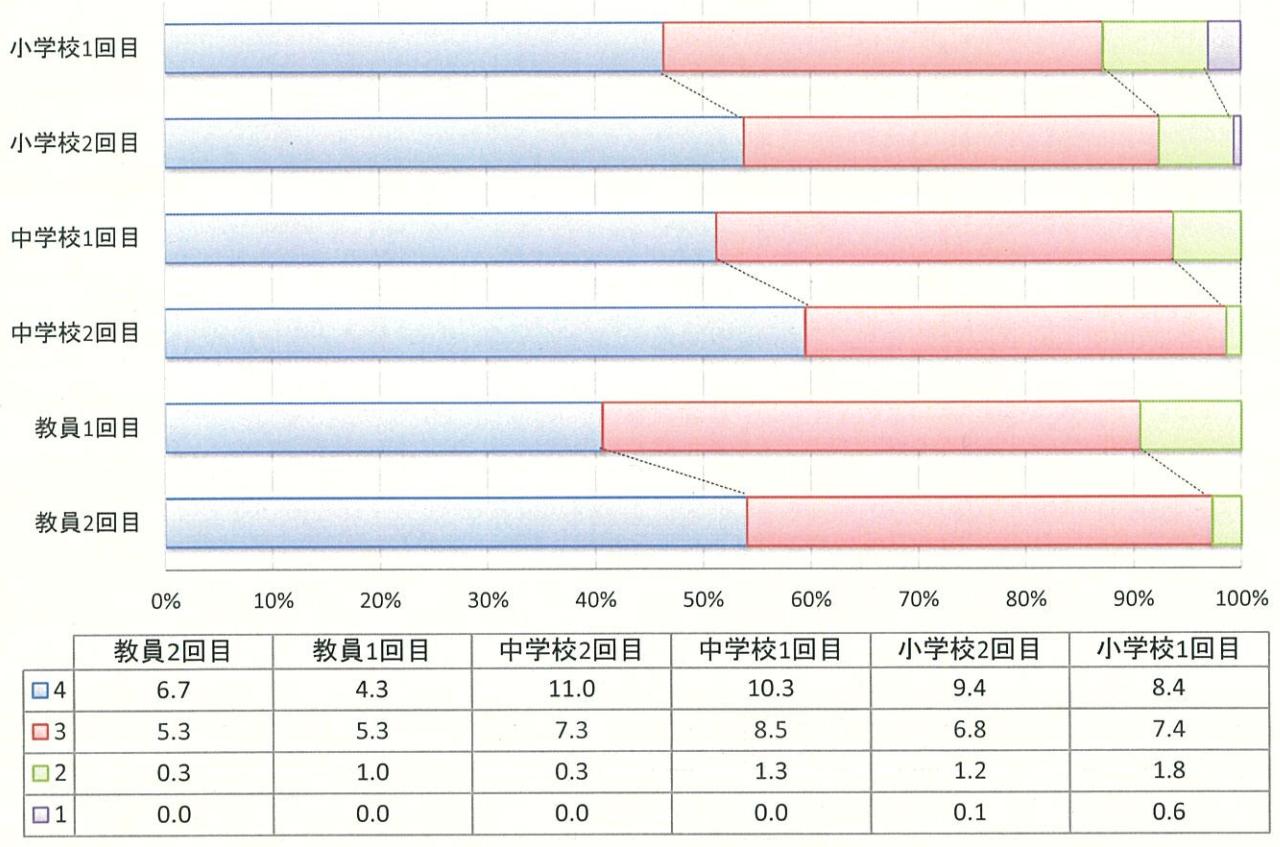
No.4 多様性の承認

考え方や感じ方には、人それぞれ違いがあってよいと思いますか。
考え方や感じ方には、人それぞれ違いがあってよいと指導していますか。



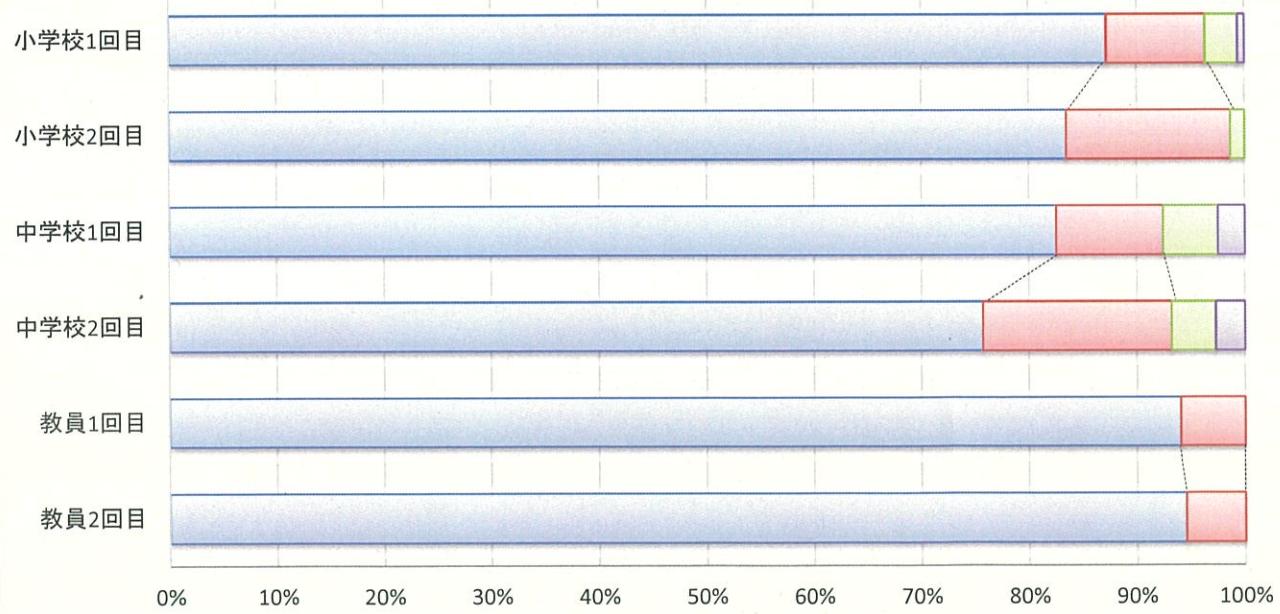
友だちや他の人は、あなたの考えをよく聞き、それを大切にしてくれますか。
子どもたちの考え方を大切にして、学級（学年）経営していますか。

No.5 他者の受容



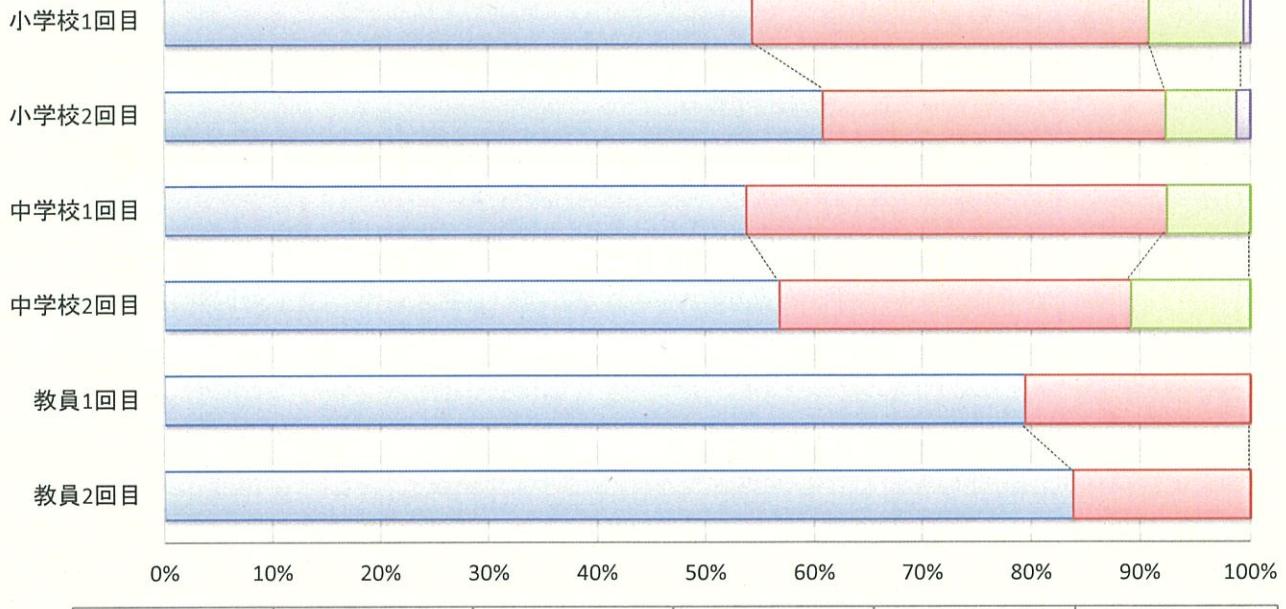
No.6 いじめの理解

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
いじめは、どんな理由があっても決して許されないと指導していますか。



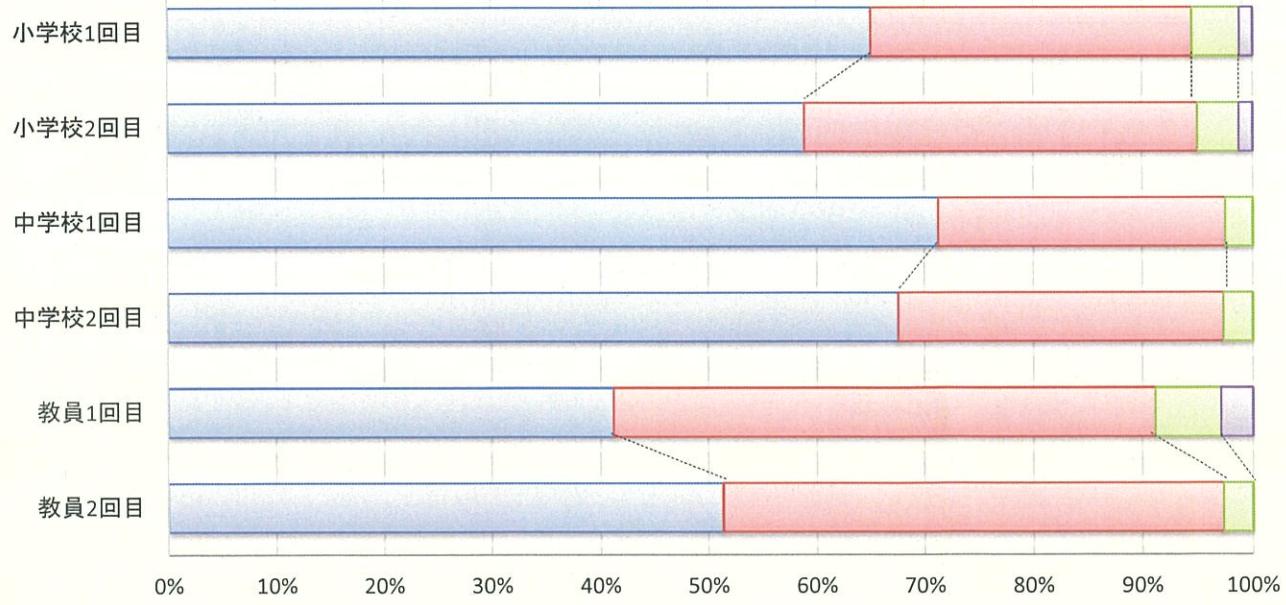
No.7 他者への手助け

だれかが困っているときは、進んで助けていますか。
他の人が困っている時は、互いに助け合うことが大切だと指導していますか。



No.8 他者からの学び

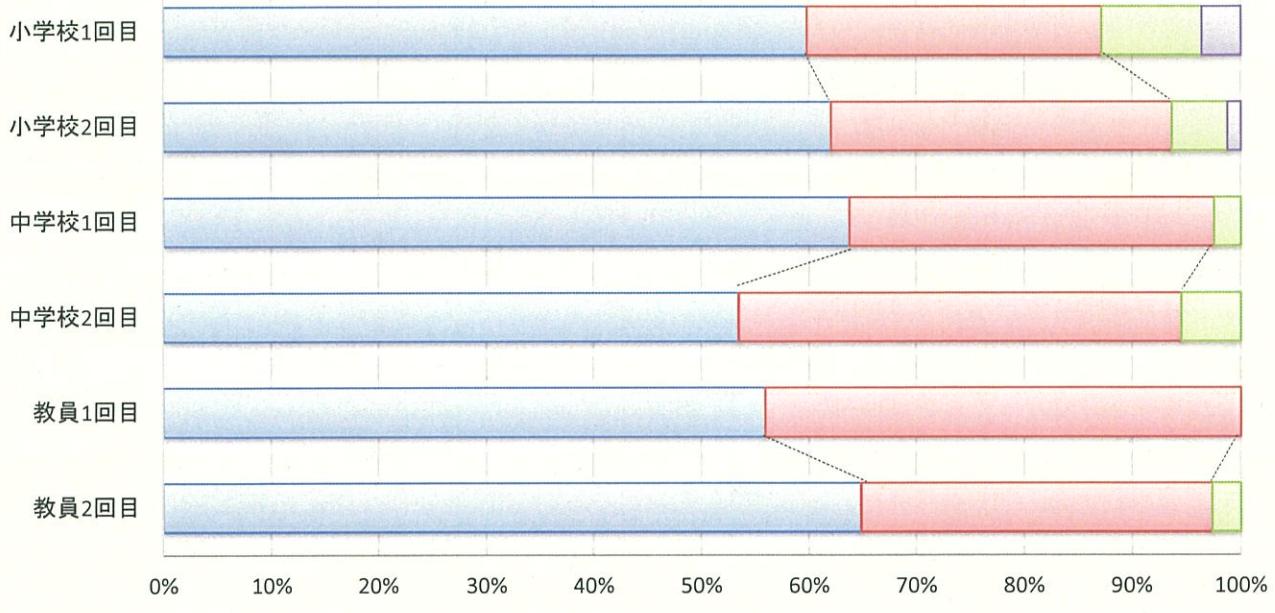
友だちのよいところに学ぶところはありますか。
子ども同士が学び合える学級（学校園）づくりに努めていますか。



	教員2回目	教員1回目	中学校2回目	中学校1回目	小学校2回目	小学校1回目
□4	6.3	4.7	12.5	14.3	10.3	11.8
□3	5.7	5.7	5.5	5.3	6.3	5.3
□2	0.3	0.7	0.5	0.5	0.7	0.8
□1	0.0	0.3	0.0	0.0	0.2	0.2

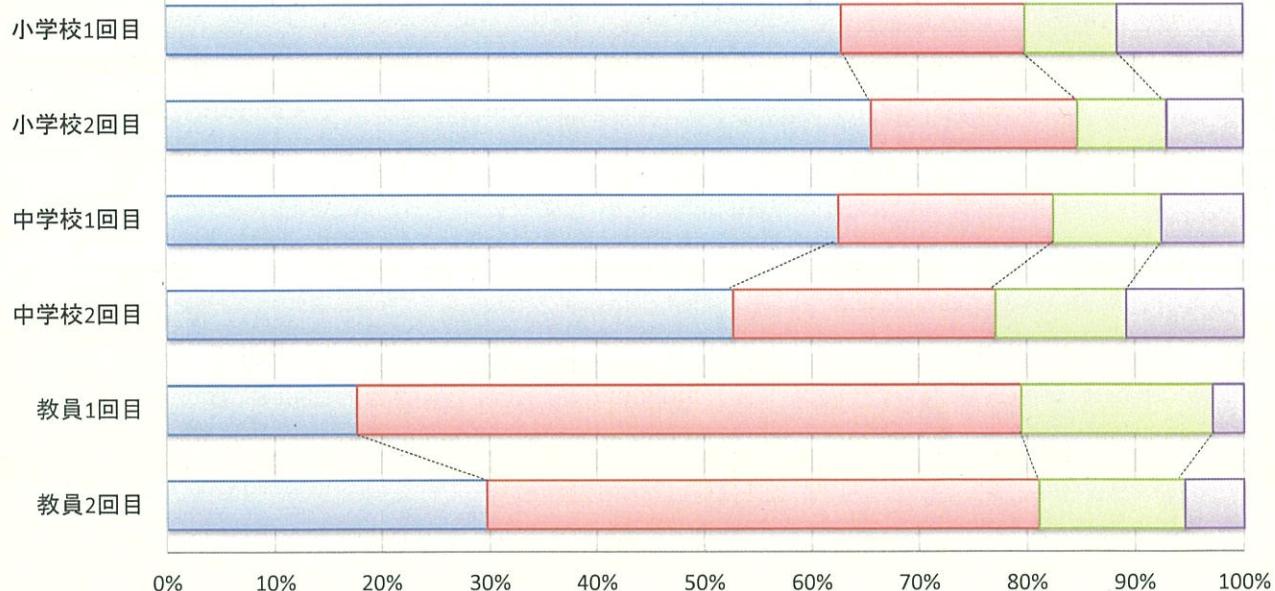
友だちや家族、先生はあなたががんばったことを認めてくれますか。
子どもたちの頑張りを積極的に認め、称賛していますか。

No.9 他者からの承認



No.10 夢や目標

将来の夢や目標をもっていますか。
将来の夢や目標の実現に向けて、子どもたちに具体的な話をしていますか。

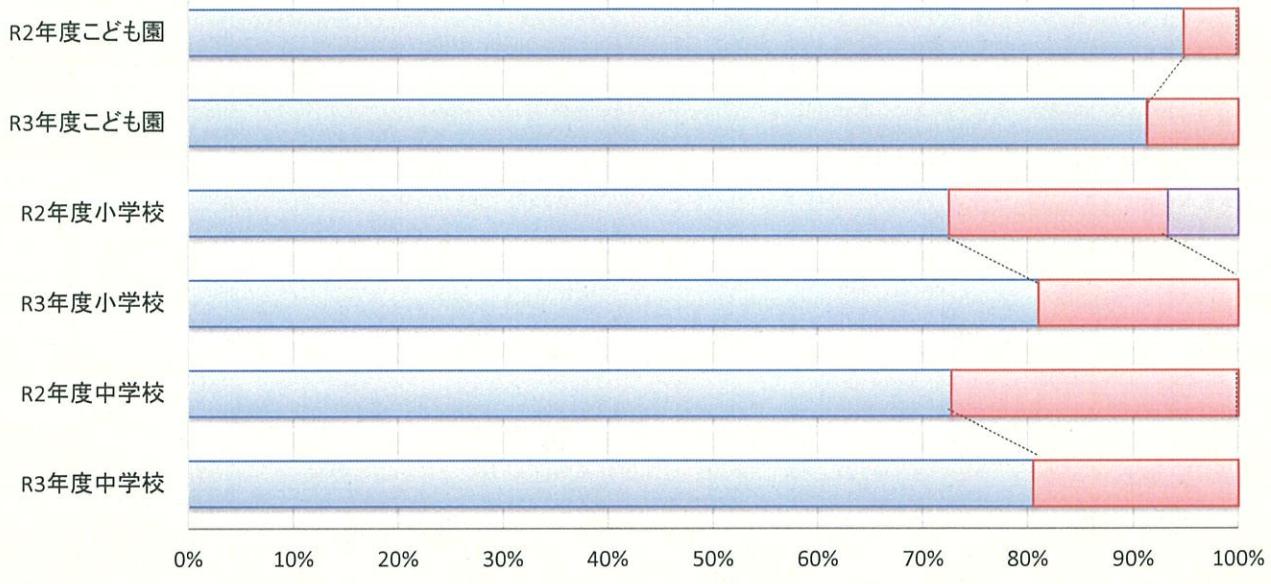


別添資料2 保護者 アンケート結果（令和2年7月、令和3年7月実施）

4…あてはまる 3…どちらかと言えばあてはまる 2…どちらかと言えばあてはまらない 1…あてはまらない

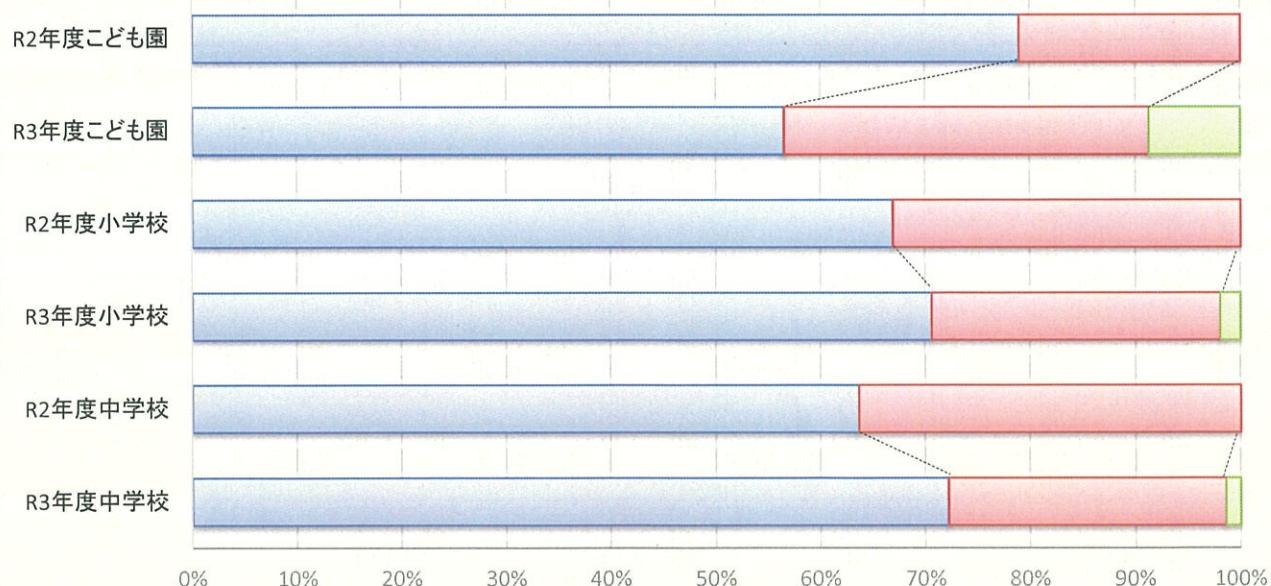
No.1 自分のよさ

お子さんのよいところが分かり、お子さんのことを大切にしていますか。



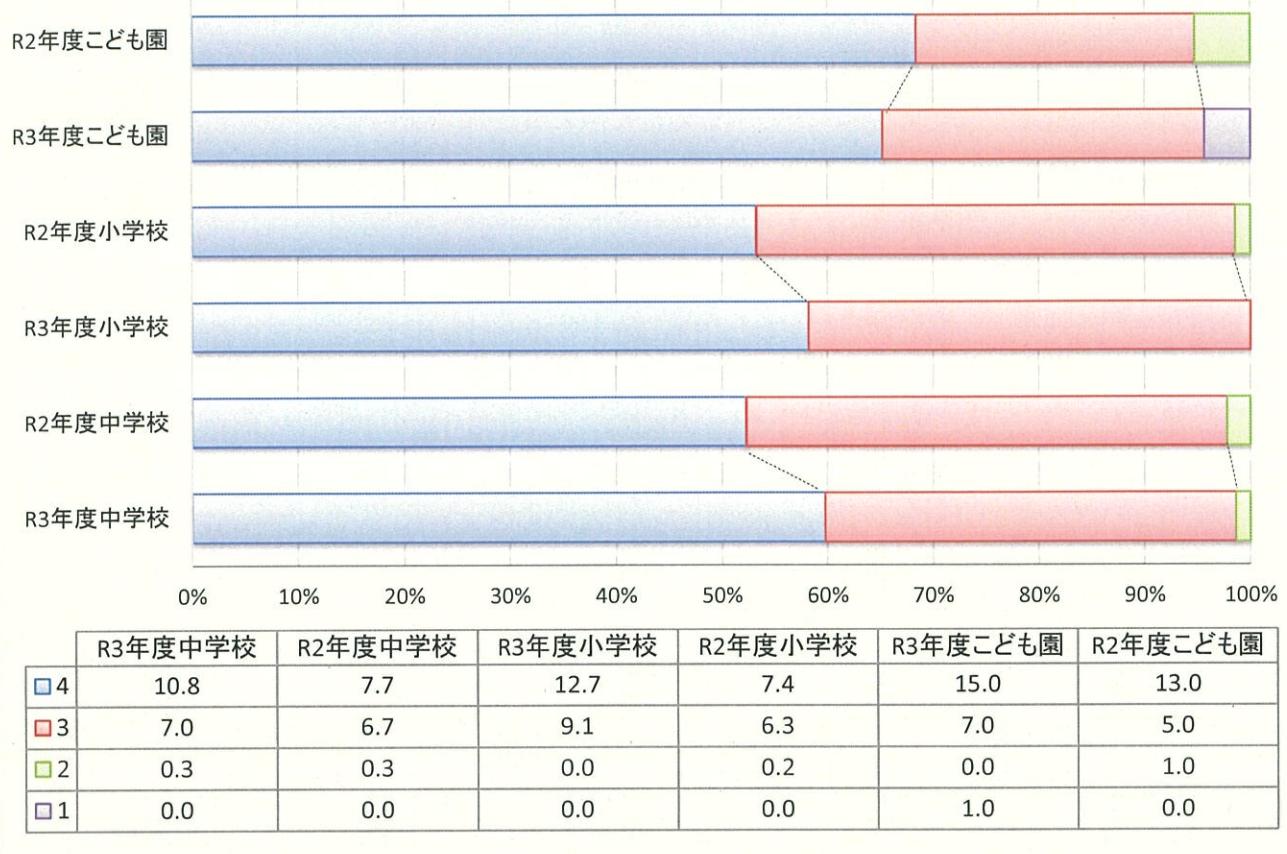
No.2 友だちのよさ

お子さんに、友だちのよさに気づかせ、相手の気持ちを大切にするよう伝えていますか。



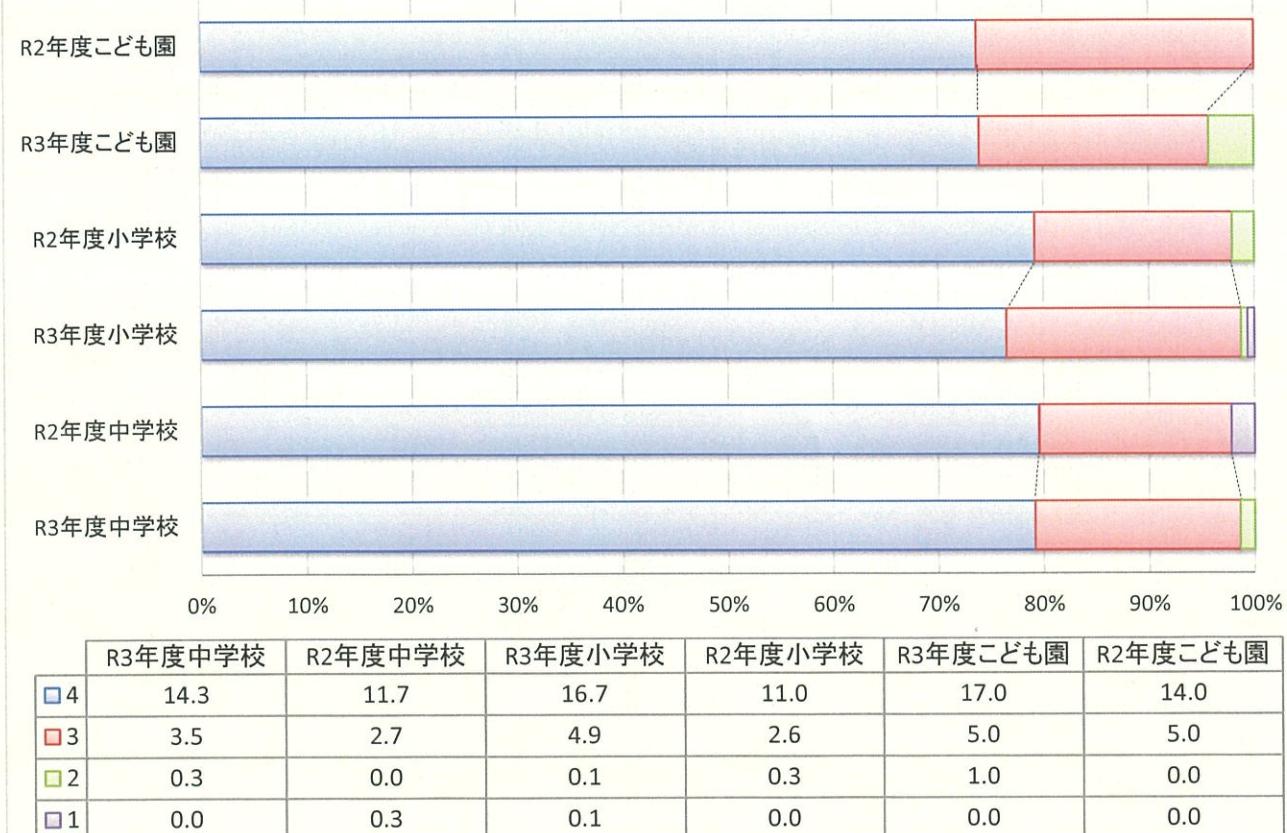
No.3 他者の考え方の尊重

お子さんの話をよく聞いて、その気持ちを理解しようとしていますか。



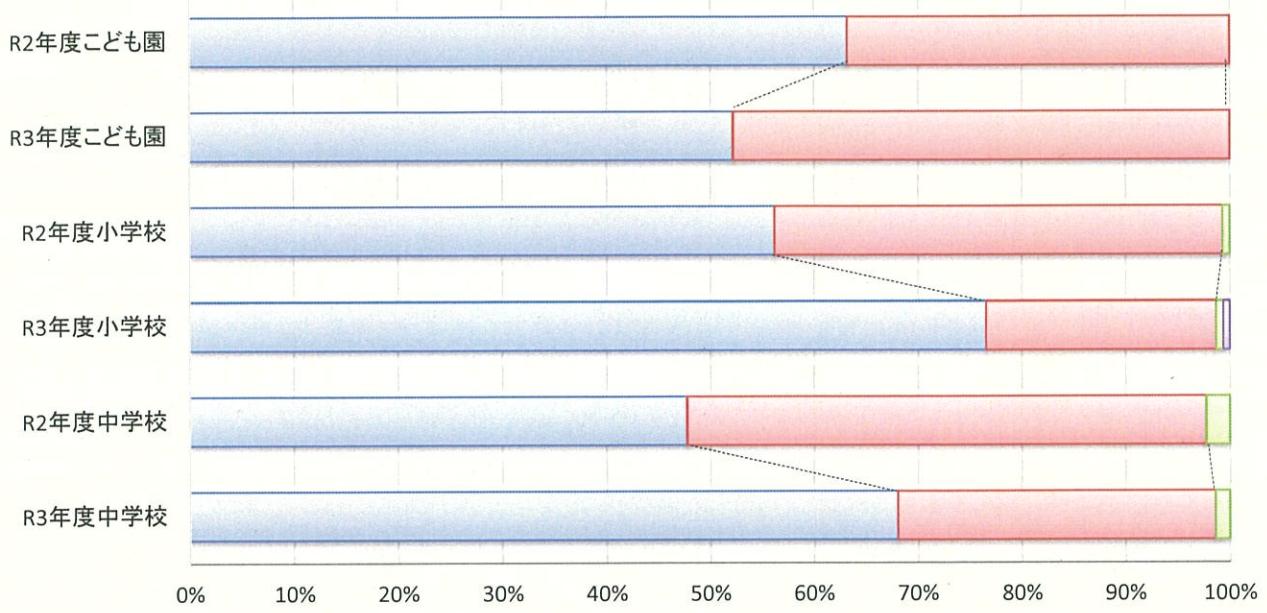
No.4 多様性の承認

考え方や感じ方には、人それぞれ違いがあってよいと伝えていますか。



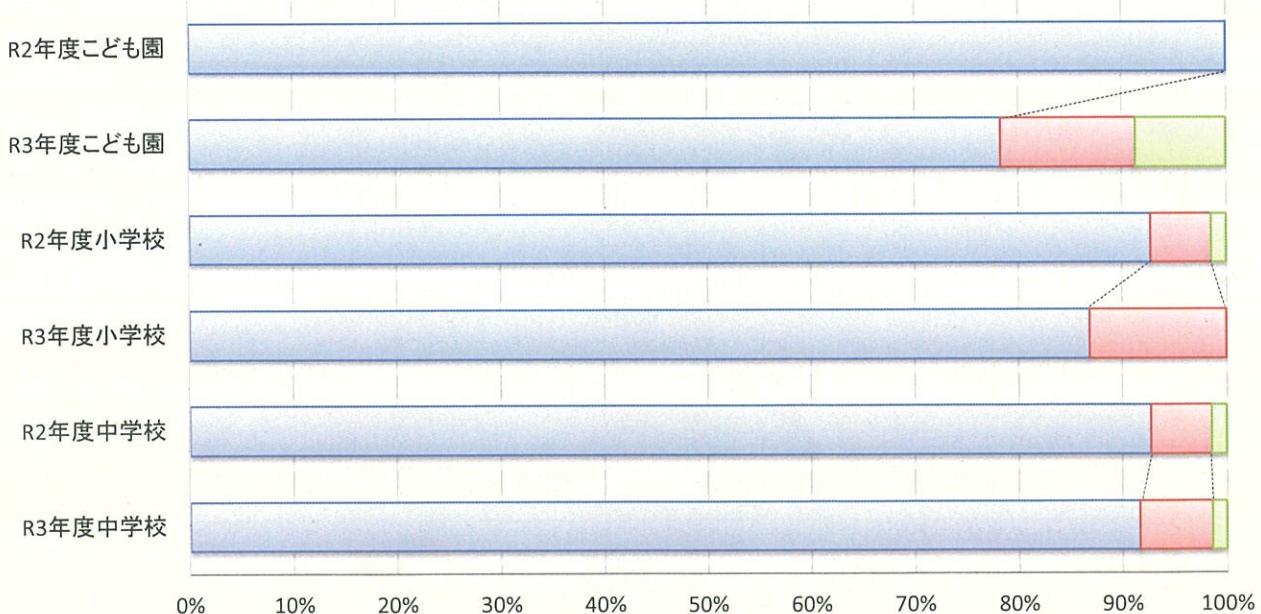
No.5 他者の受容

家庭では、お子さんの考え方や立場を大切にしていますか。



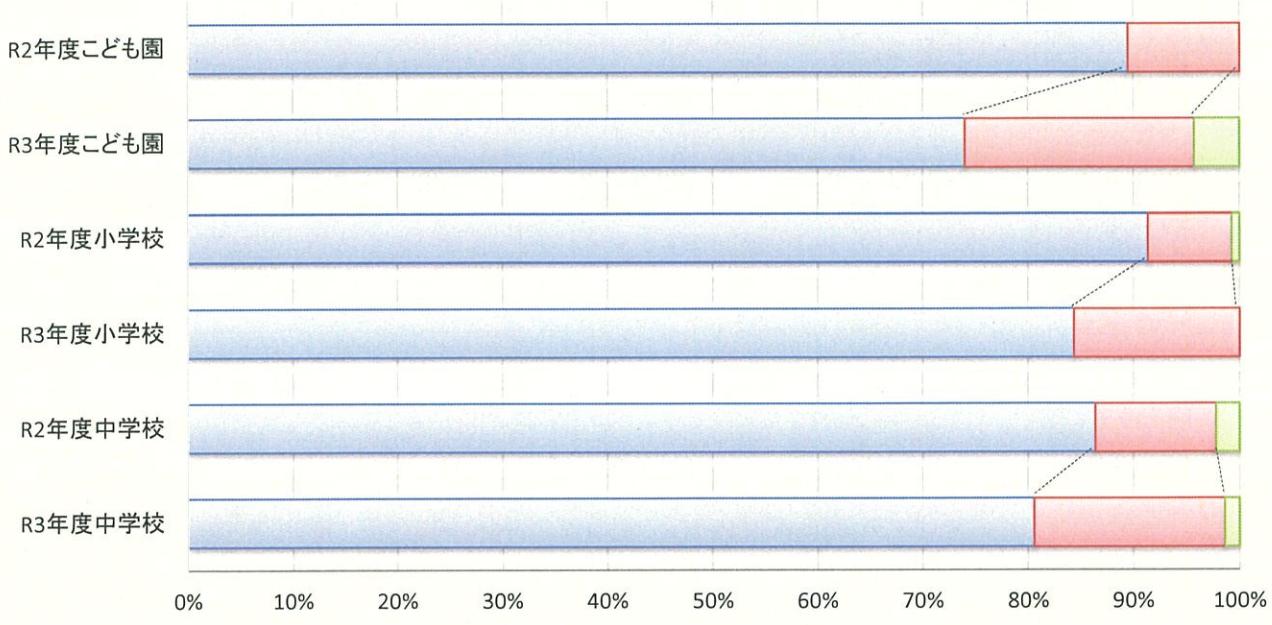
No.6 いじめの理解

いじめは、どんな理由があっても決して許されないとお子さんに伝えていますか。



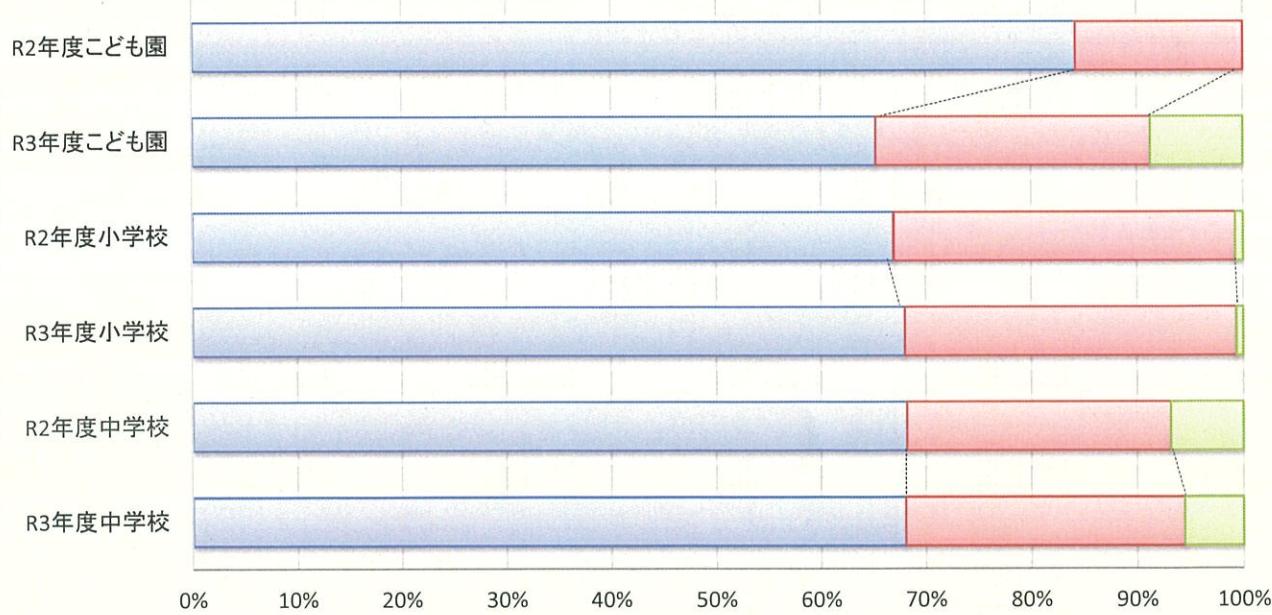
No.7 他者への手助け

他の人が困っている時、互いに助け合うことが大切だとお子さんに伝えていますか。



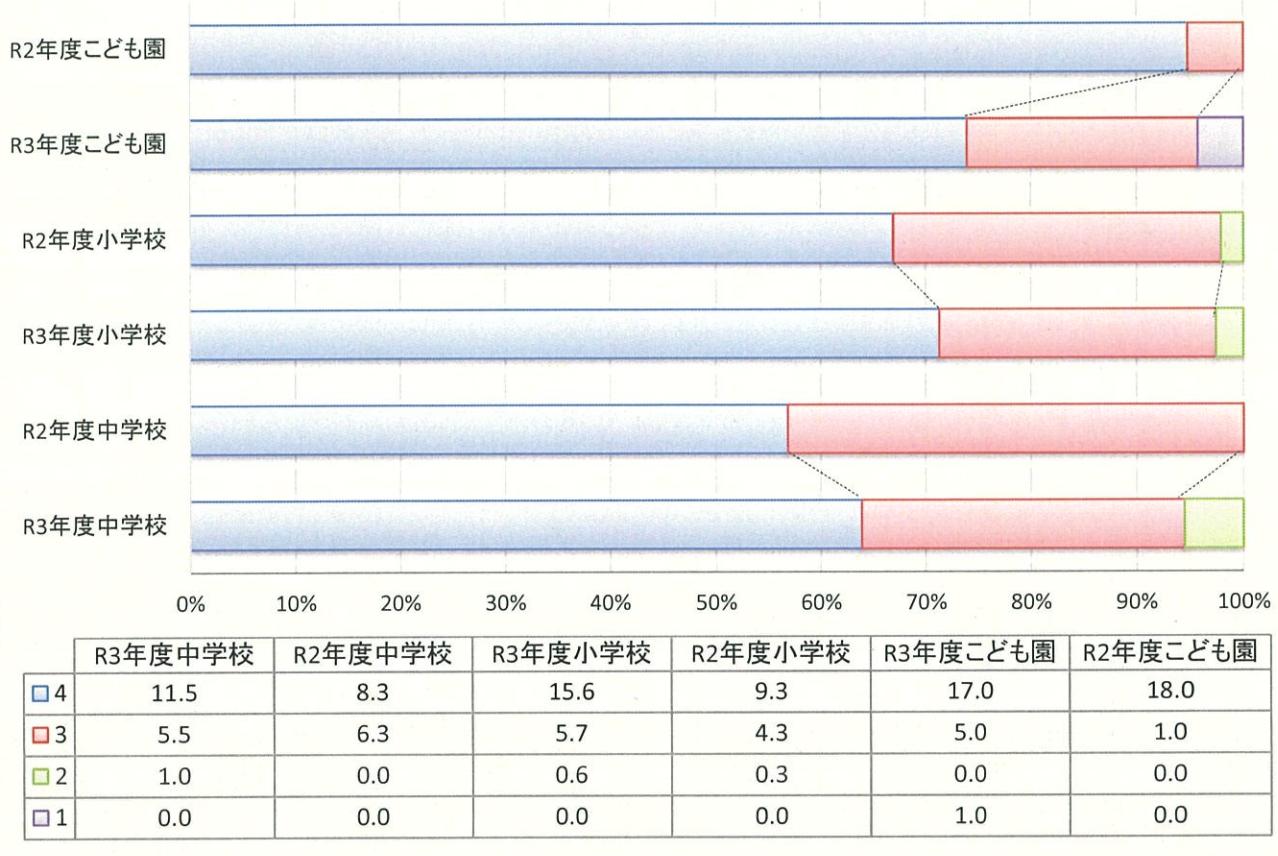
No.8 他者からの学び

友だちと学んだり、一緒に活動したりするよさをお子さんに伝えていますか。



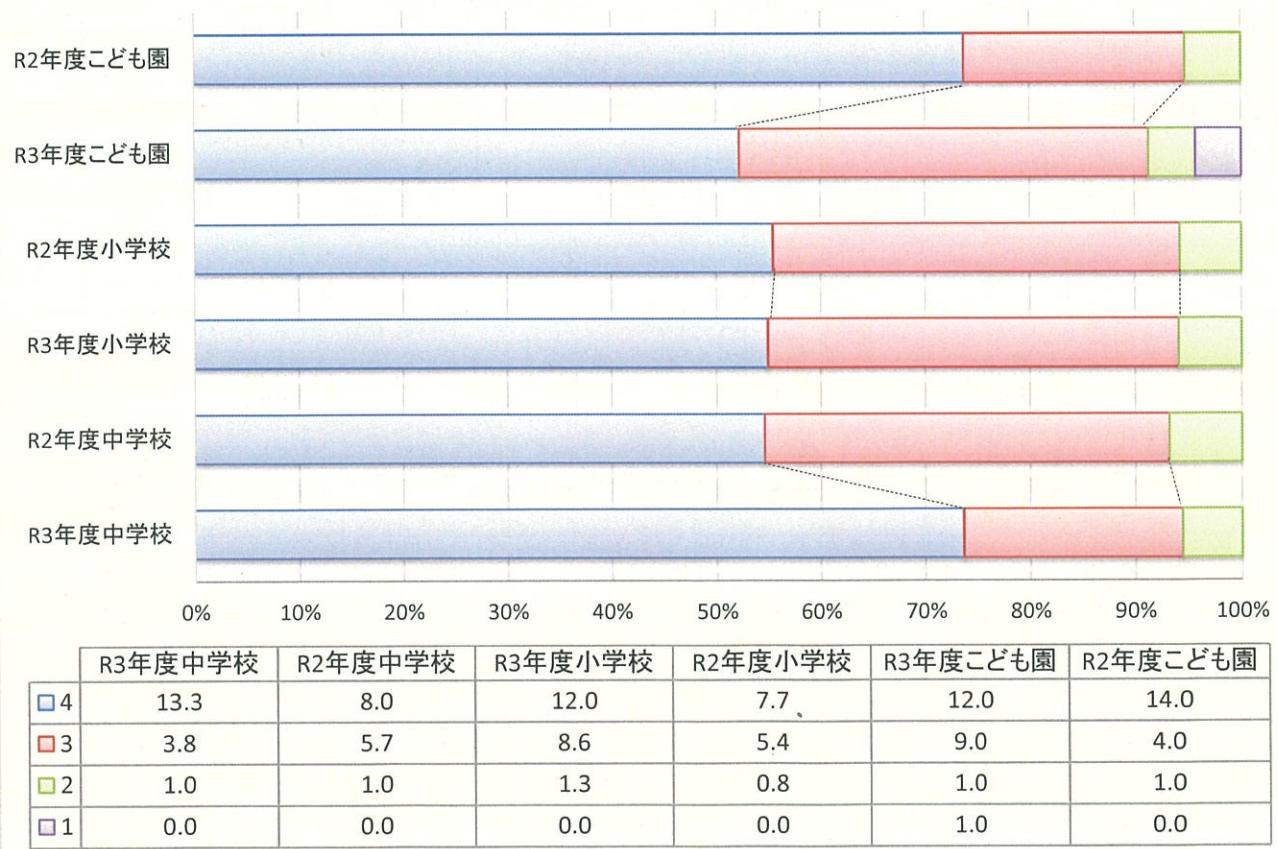
No.9 他者からの承認

お子さんのがんばりを積極的に認め、声をかけていますか。



No.10 夢や目標

お子さんの将来の夢や目標の実現に向けて、前向きに話すようにしていますか。



つながり

～校種や業種を越えて 教科の枠を越えて
学びがつながり続ける 広野町の教育～

学校・家庭・地域 みんなで人権教育を推進していくために

人権教育を通して育成したい資質・能力

子どもは「学校・家庭・地域」の中で育ちます。「学校・家庭・地域」が同じビジョンをもち、それが連携して子どもを育てていくことが必要です。では、どんな力を育成するために、それがどんな関わりをしていく必要があるのでしょうか。



【知識的側面】

- ・自由、責任、正義、個人の尊厳、権利、義務等の諸概念についての知識
- ・人権の歴史や現状、法令、人権侵害を予防したり、解決したりするための知識

【価値的・態度的側面】

- ・自他の良さを見つけ出し、その可能性を信じる態度
- ・多様性を認める心情
- ・自分の行為に対する責任感
- ・正義や自由、公正公平の実現に向かう意欲や態度

【技能的側面】

- ・他者と人間関係をつくる力
- ・偏見や差別を見極める力
- ・相手を尊重しながら自分の気持ちや考えを表現する力
- ・他者の心の痛みを自分の経験と結びつけて推し量る力

- たえまない愛情・受容的态度
 - ・言葉かけ
 - ・しつけ
 - ・立ち振る舞い
- 授業・学校行事・研修等への積極的なかかわり
- 学校への情報提供・活動支援 等



- 日常的なあいさつや見守り
- 豊かな体験活動等の提供と活動への支援
- 学校行事等へのかかわり
- 専門的アドバイスや外部講師による講話や演習 等



- 個性を尊重した指導と支援
- 望ましい人間関係づくりへの配慮
- 道徳教育の充実
- 自主性や主体性を重視した指導と支援
- 子どもの「感」でつくる教育活動



- 同学年、異学年、異校種、地域の人と学ぶ活動の工夫
- 安全で安心できる環境づくり
- ボランティアやキャリア教育等における体験活動の充実 等

広野こども園・小・中学校での取り組み

子どもたちの「どうしてだろう?」「次はもっとこうしたい!」という思い・願いに寄り添いながら、授業を行っています。授業づくりにあたっては、学習過程における「子どもの『感』」を意識し、「学びに対する強い動機付け」「課題解決の促進・多様な活動の保障」「学びの意味付け」の3つを大切にしています。



広野町で大切にしている「子どもの『感』」

【例】
「これどうしよう…」
「どうすればいいか迷ってしまう」

安心感
不安や心配等、何のわだかまりもなく行動できる心の状態

【例】
「自分の考えを安心して言うことができるよ」
「この学級なら自分のやりたいことができる」

【例】
「この場所に行くとね…」
「これを解決するにはね…」

困り感

解決の見通しが立たず
に悩んでいる心の状態

達成感

行ってきた活動に納得・
満足している心の状態

【例】

「なるほど! 納得した」
「考え方友だちに伝わったよ」

必要感

行うべき活動の目的や意味
が明らかになった心の状態

期待感

自分の願望や知的好奇心
を高めている心の状態

【例】

「何が出てくるのかな」
「次はどんなことを行うのかな」

段階

課題把握

課題解決

個 ↔ 集団

振り返り

ねらい

【学びに対する強い動機付け】

- 課題をつかむことができるようにする。
- 解決の方法を見通すことができるようにする。

【課題解決の促進・多様な活動の保障】

- 自分なりの方法で課題解決を図ることができるようする。
- 協働して課題を解決し、話合いの質を高めることができるようする。

【学びの意味付け】

- 学びを確認・実感し達成感を得ることができるようする。

教師の支援内容

教材との出あわせ方

- ・既習事項と矛盾、ズレのある課題等の提示
- ・前時・単元での振り返りの活用
- ・資料・調査結果等の提示

解決の手順や方法の確認

- ・生活経験・既習内容との関連化
- ・試しの活動の設定
- ・考え方をつくる手順や方法の示唆
- ・役割分担の提示

自分なりの方法による解決

- ・各教科等で働くかせたい見方・考え方への価値付け
- ・教具や資料、モデル等の提示
- ・解決過程の可視化

他者との協働による課題解決

- ・話し合う目的・内容・方法の明確化
- ・思考過程の可視化
- ・問い合わせによる考え方の共有化
- ・発表する内容・振り返る内容を明確にした場の設定

振り返りの場の設定

- ・子どもの自己評価と教師の評価・価値付け
- ・評価問題の活用

子どもの「感」

■あれ? どうしてだろう。やってみたい。【期待感】

■ここまでは分かるけど、ここからどうしようかな。
【困り感】

■○○の方法で解決できるかもしれない。【必要感】

■○○に聞いてみると□□が解決できるかもしれない。【必要感】

■○○の手順で考えると□□になった。

■○○の方法でまとめることができた。

■○○の考え方と同じこと、違うことは□□だ。

■みんなの考え方をまとめると○○と言えるから、もう一度□□の点から考え方直してみようかな。
【達成感】

■こんなことができるようになったよ。【達成感】

■身に付けた方法で今度もやってみよう。【期待感】

■みんな(友だちや教師)がしっかりと聴いてくれるから、自分の考え方を話してみようかな。

【安心感】

3つの学習過程で教師が意識したい「子どもの『感』」

家庭における人権教育

子どもの人権意識を育むために、地域や学校において様々な取組がなされていますが、すべての教育の出発点と言われる家庭教育においても、その役割が求められています。家族や親子の日常生活での関わりについて「人権」という視点で振り返ってみましょう。



こんなことはありませんか？

事例1

子ども「今日学校ですか…」

大人「今忙しいから、あとにして！」

(その後、子どもと話をする場をつくらない)

事例2

子ども「この問題分からないんだけど…」

大人「こんなこともできないの？全く…」

(大人目線で、その場の感情で怒ってしまう)

事例3

(うまくいかなかつた子どもに対して…)

大人「お兄ちゃんは〇〇だったのに…」

(兄弟や他の友だちと比べ、優劣をつける)

こんな対応にしてみてはどうでしょう？

何か重要な話があるのかもしれません。しっかり子どもの表情や様子を見てください。その上で「〇〇なら時間取れるけど、それでもいいかな」と言われるだけでも、子どもは安心しますね。

「できない」「分からない」と言った子どもが恥をかいてしまう状況にあります。この場面は「分からぬことを自分から質問できた」この行為を認め、話を聞く姿勢が大切ですね。

このような言葉をかけられた子どもはどう思うのでしょうか。結果だけを見て、他と比較するのではなく、これまでの過程を認めつつ、これからどう対応すればよいのか一緒に考えてみましょう。

子どもの確かな人権意識を育むために…



自尊感情を育む

安全で安心できる環境

自分が大切にされている という感覚



安心して生活できる環境や「自分の思いを受け止めてもらえた」「いつも自分を見ててくれている」など、自分が大切にされているという感覚や経験は、**自尊感情**を育むことにつながります。また、自分を大切に思うことは、他人を大切にする意識を高めることになります。日頃からのコミュニケーションが大事です。

聴く

うなずいたり、あいづちをうつたりしながら

「うん、うん」「それで？」「なるほど」これだけでも「自分は受け入れられている」と感じます。

子どもが話すキーワードを繰り返す

「〇〇なのね」「△△なの？」大人に共感してもらえるという安心感から、自己肯定感も高まります。

子どもが話した内容に質問してみる

「その時どうだったの？」「それで？」子どもは自分に興味をもって聞いてもらえると感じます。

言葉かけ

結果よりも過程（プロセス）を重視する

「ここまで努力がすばらしいね」「これまで本当にがんばってきてよかったです」結果もこれまでのかんぱりも、どちらも認めてもらえたという嬉しさを感じ取ることができます。

"あい"メッセージを送る

"あい(相)"手の気持ちに共感し、"I(私)"の気持ちを伝えましょう。
「よかったです。やったね。私も嬉しいよ！」
「あなたが楽しそうだと、私も楽しいな」

人権を尊重する地域を支える大人として

子どもは「学校・家庭・地域」の中で育ちます。教師として、家族として、地域住民としての人権意識を定期的にふり返り、広野町の子どもたちが「自尊感情」を高め、個性豊かに、明るく前向きに生活できるようにしましょう。



【大人のチェックリスト】※定期的に✓してみましょう

	ふり返り項目	1回目	2回目	3回目
1	子どもを一人の対等な人間として大切にしていますか。			
2	子どもの意見と価値観を尊重するようにしていますか。			
3	子どもの言い分を頭から否定することなく、耳を傾けるようにしていますか。			
4	子どもが自分の考えを言ったり、自分で決定したりする機会を認めていますか。			
5	学力や運動能力等で子どもに優劣をつけることなく、一人一人のよさや努力した過程を見るようにしていますか。			
6	子どもが安心して、間違えたり、考えを変えたり、「分かりません」と言えるような雰囲気づくりに努めていますか。			
7	「男の子だから〇〇しなさい」「女の子だから〇〇してはいけない」と性別を理由に、言葉を発しないようにしていますか。			
8	いじめは人権侵害であることを理解し、いじめという行為はあってはならないことなのだと毅然とした態度で接していますか。			
9	いかなる場合にでも体罰はしてはいけないと、自分に言い聞かせていますか。			
10	「〇〇さんの家族って…よね」と子どもに聞こえる場所で、他人の悪口や否定的な言葉を話さないようにしていますか。			
11	子どもが間違えたことや失敗したことを、大勢の人がいる前で指摘しないように心がけていますか。			
12	人権教育の視点から、子どもの手本となるような言葉づかい、行動をとっていますか。			

〔参考資料：人権擁護のためのセルフチェックリスト（全国保育士会）〕

このリーフレットを手にした皆さんへ

東日本大震災から10年が過ぎようとする現在、広野町では、住民の帰還や他自治体からの転居、避難先での学校運営、地元での学校再開等、様々な困難な状況に直面してきました。人権に関しても、大震災に起因したいじめ、風評被害、正しい知識に基づいた放射線の知識不足による偏見等の課題が県内外で見られます。それに加え「新型コロナウイルス感染症」拡大における人権侵害等の問題も生じてきました。

昔から広野町に住む皆さん、震災後広野町に移住してきた皆さん、町立学校と県立学校に通う児童生徒等、広野町には様々な立場の、多様な価値観をもつ住民の皆さんのがたくさんいます。住民一人一人が互いを尊重しながら、自分の夢に向かって、個性豊かに、他者と協働しながら生活できる地域を目指していきたいと考えています。学校・家庭・地域それぞれの立場で、この広野町における人権教育の推進にご理解とご協力、そしてこのリーフレットの積極的な活用をよろしくお願いいたします。



発行者：広野町教育委員会学校教育課（福島県双葉郡広野町大字下北迫字苗代35／電話：0240-27-4166）

つながり

～校種や業種を越えて 教科の枠を越えて
学びがつながり続ける 広野町の教育～

学校・家庭・地域 みんなで人権教育を推進していくために

子どもの「自分らしさ」を奪わない 学校・家庭・地域であるために

「違いや多様性」を受け入れる

人は誰もがみんな同じではなく、多かれ少なかれその人によって「違い」や「特性」があります。



これらの「違い」や「特性」を「変だ！」と子どもを無理に矯正したり、当事者を社会や集団から排除したりすることはあってはならないことです。これからの時代、それぞれの「多様性」を尊重しながら、多くの課題に向き合っていく資質・能力が求められます。子どもに関わる大人自身が、子どもの「自分らしさ」を尊重できるような関わりを続けていく必要がありますね。

こんな一言に気をつけてみませんか？

事例1

男子「ぼく、赤いランドセルが欲しいな…」
大人「赤は女の子の色だから、黒や青にしなさい」
(偏った※1 ジェンダー規範により決められる)

こんな対応にしてみではどうでしょう？

男の子って、女の子って「こうだよね」という既存のジェンダー規範は、子どもたち一人一人の「自分らしさ」を見つける妨げになり、子どもの自信を喪失させるきっかけを作ってしまいます。

事例2

(転んでしまい泣いている男の子に対して)
大人「男の子だから、めそめぞ泣くんじゃない！」
(性別を理由に泣かないようにと叱ってしまう)

では、泣くことは女の子だけが許される行為なのでしょうか。辛い時、悲しい時に涙が出てしまうのは大人も子どもも同じです。子どもの思いに寄り添いながら、素直な気持ちを大切にしてあげたいですね。

事例3

男子「男がプリンセス好きなんて気持ち悪い！」
大人「そんなこと言わないの！」
(子どもの発言を頭から否定してしまう)

子どもの「偏ったジェンダー規範」をすぐに改めるくなる気持ちも分かります。でも、ここは「あなたはそう思うんだね」とまずは受け入れ、なぜそう思ったか聞いた上で、自分の考えを伝えてください。

※1 「ジェンダー規範」…「男性と女性がどのようにあるべきで、どう行動し、どのような外見をすべきか」という慣習的な考え方のこと。

東日本大震災から10年…「中学生からの“ありがとう”」



東日本大震災から10年を振り返り、中学生が自分の思いを表現しました。

当時、多くの住民が困難を感じる中において、子どもや住民の人権がどう守られ、どのように尊重されたのでしょうか。そして、その経験から、子どもたちは何を考え、今後どのように生きようと思っているのでしょうか。

(令和2年度広野町立広野中学校第3学年生徒の作品より)

「両親の努力 成長し理解」

10年前の3月11日のあの日。私は、幼稚園の年中で何が起きたか分かっていませんでした。時がたつにつれて震災・原発事故が起き、津波にのまれ逃げ遅れた人が亡くなっているということが分かりました。

私は当時、双葉町に住んでいて原発事故の影響で10年たつ今も帰れていません。小さかった自分は親のおかげで今も生きています。親戚のいる埼玉県、それから西郷村に避難し、現在は広野町に住んでいます。その間に両親の計り知れない努力と汗があるのだろうと中学生になり、感慨深く感じることができます。

あの日あの時、何も分からなかった私は、周りの人々のおかげで今生きていると思っています。その中でも一番感謝を伝えなければいけない存在は両親です。これからもこの思いはずっと胸の中にしまって、恩返しをしたいとひそかに思っています。いつか双葉町の家に帰り、住みたいと思っています。

「支えられ得た安心」

もうあの日から10年たとうとする人々の感謝の思いを書きたいと思います。ぼくが4歳の時、いきなり地震が起き、目の前で道路が盛り上がりトンネルから水が流れて来ました。とても怖かったです。

その後、自分の家に帰り、父が帰ってくるのを待ちました。夜になり家族でいとこの家に行き、アパートなどを借りて住むことになりました。母と父は、家族のために食料を集めに行き、大変だったと思います。

お風呂にはあまり入れない、トイレも水が流れないとても大変でした。落ち着いてきた時には、人々の支援のおかげで学校へ行けました。とても感謝しています。

さまざまな地域の方からの支援金、自衛隊の方々からの支援があり、一日一日安心して過ごすことができました。皆さんの温かい支援、ありがとうございます。

「当たり前を振り返って」

震災から10年がたち今まで、たくさんの支援を受けてきました。千葉県に住んでいるおじの家にお世話になったり、いわきにいた時は小学校に入学する時に無償でランドセルを頂いたりしたことが強く印象に残っています。

自分が15歳になり、ここまで成長できたのも、支援してくださった方々のおかげです。そのことにも中学生になってから気が付きました。当たり前のように小学校を卒業でき、今、中学校卒業も目の前です。今までのことや、たくさん支援してくださった方々に感謝の気持ちを忘れずに、今後生活していきます。そして、自分も人から感謝されるような人間になりたいと思います。この先、長い長い人生の中で、たくさんの人に出会っていくと思います。この先出会う人も、今関わってくれている人ともお互いに絆を強め、困ったときは助け合っていけるような人間関係をつくっていきたいです。

両親・家族への感謝

「助けられた命大切に」

今年で震災から10年が経過しました。今でもあの時のことは鮮明に覚えています。

母が私を抱き締めながら泣いていたり、避難所にはたくさんの人が避難生活を送っていました。そして、私が生きているのは、家族やたくさんの方々に支えられたからだと思います。

前触れもなく、経験したことのないくらいの大地震が来て、何が起こっているかさえも分からぬ状況の中で私の両親は私や姉を必死に守ってくれたり、母の実家にある白河市に避難したりと今考えれば両親の方がつらかったと思います。

そして、たくさんの方々から応援の声や支援物資を頂きました。何回感謝を言ても足りないくらい感謝しています。たくさんの方々から助けていただいたこの命を大切にして、感謝を忘れずに生きていきたいです。もし災害が起きたら、私が助ける側になってたくさんの方々の心の支えとなって、恩返しをしていけたらいいなと思います。

「幸せを支えてくれる人」

私が改めて感謝を伝えたい相手は、両親です。

震災当時、私は福島市の父の実家近くに住んでいました。祖父母の家によく行ったり、その土地の食べ物を食べたり、普通の生活を送っていたと思います。幸せな時間もあつという間に壊れるのだと、わずか5歳だった私でも感じました。

母は放射線についての情報を外国の記事から得たり、食料の産地にも気を配って食べさせてくれたりしました。父は高齢の祖父母の元にいた方がいいのか、それとも私と弟の健康な未来を守るために引っ越し方方がいいのか、母の訴えを冷静に考え、引っ越しを決めました。つらかったし、悔しかったと思います。でも、最終的に決めてくれた父と、全てを尽くして守ってくれた母には感謝の気持ちでいっぱいです。

あの日から10年経て思うこと。それは、幸せの裏には、必ず支えてくれる人がいるということです。

「多くの支援に思いはせ」

僕は、震災でたくさんの人に助けられました。3月11日に起こった大震災は僕が幼稚園にいた時でした。

それから10年経って僕は15歳になり受験生になりました。今でも震災の日は鮮明に覚えています。僕は千葉県に避難しました。そこで親戚の家にお世話になりました。親戚の方々には、とても感謝の気持ちでいっぱいです。

僕は今から約7年前に広野町に帰ってきました。その時に震災後の町のことを聞きました。地震の被害はもちろんですが、津波の被害がすごかったと聞きました。

ボランティアの方々が住民を避難させ、行方不明の人たちを捜してくれていたということも聞きました。ボランティアの方々の協力がなければ、今の僕たちの生活はなかったと思います。本当に感謝しています。

「今も残る幸せな思い出」

いろいろな方々から人、物、心の支援を頂いていたこと、震災が起きたのがどれほど大変で苦しかったのかということ、当時の私には何も分かりませんでした。

しかし、震災で明確に残っている記憶が一つだけあります。それは避難所にいたお姉さんと一緒に追いかっこをした思い出です。当時の私にとって幸せなひとときだったと思います。今思えば、そのお姉さんはボランティア活動をしていた方だったのかなと思い返すことがあります。

今私たちがこうして普通に生活することができるは、支援をしてくださった方々やボランティア活動をしてくださった方々が私たちのために頑張ってくれたおかげです。震災を経験したこと決して無駄にせず、今度は誰かの支えになれるようになりたいと考えています。

「今度は自分が助ける側に」

僕は震災で、いろいろな人に助けてもらいました。震災で避難せざるを得ない状況でした。避難先の埼玉県三郷市では、不安と恐怖でいっぱいでしたが、大学生の方々と一緒に遊んでくださったり、元気づけてくれたりしたので、安心して過ごせました。

体育館は、暑くてプライバシーがなく劣悪な環境でしたが、ボランティアの皆さんや、周りの人々が温かく接してくださいました。震災という暗い状況下で、見ず知らずの人たちからも優しくしてもらいました。あれから10年がたった今、今度は僕たちが優しくする立場だと思います。

多くの人の助けがあったことによって、今の僕がいます。この経験を生かして、多くの人々を助けたいと思います。次にこのような震災があっても、過去から学んで未来に生かすように、過去に伝える大事なこととして語り継いでいきたいと思います。

支えてくれた方々への感謝

「古里に再び活気を」

今から10年前の震災の時、僕はまだ幼稚園児でした。あまり自分で覚えていませんが、たくさんの人のお世話になったそうです。僕は後でそのことを両親に聞き、そんなことがあったのかとびっくりしました。

その当時は突然、みんなと会えなくなつたことが悲しく思いました。あの時のことを今考えると今も生きていることができ、良かったと思います。この震災でたくさんの人が亡くなる中、今自分が生きていることはもしかすると奇跡なのかもしれません。

震災の約5年後、再びこの広野町に戻ってくることができました。戻ってきて私の目に映った町は、5年前と比べるととても暗くひっそりとしているように見えました。近所にいた方たちも既にどこかへ引っ越してしまったことを後から知りました。今、地域は復興の途中です。あの活気のあった広野町が再び戻ってほしいと思っています。

「寄付のランドセルに喜び」

3月11日、幼稚園生の時に被災しました。その時の僕は何が起きているか分からず、ただ不安な日々を過ごしていました。この震災で多くの人が亡くなり、3月11日はとても悲しい日でもあります。

小学校に入学する時に黒いランドセルを寄付していただきました。とてもうれしかったのを今でも覚えています。僕は被災して、自分は不幸だと思い込み続けていました。しかし、自分の周りの人たちも同じ状況にいる中で寄付などをして見えないところで努力してくださっていたと思うと、感謝してもしきれません。

私も将来、人が困っていたら助けられるような人間になりたいと思います。

「支えがあって今がある」

10年前。私の通っていたいわき市の久之浜第一幼稚園は、波にのまれ、今では跡形もなくなりました。地震発生時、私の身内には原子力発電所で働いていた人がいます。今生きていることが奇跡とも言えると思います。震災後、さまざまな否定的な声もありますが、そういう関係の仕事に携わってくれています。感謝しなければならないと思います。

そして震災から数日がたった時、私は甲府に4ヶ月ほど避難をしました。甲府の幼稚園の方々には、温かく迎え入れてくださったこと、洋服や家電を支援してくださったこと、たくさんの感謝があります。

たくさんの助けがあったからこそ今があること。私たちは、これを次の世代に伝えていくべきです。過去のことだからといって目を向けず忘れてはいけません。これから先、同じような災害が起こったとき、今度は私たちが誰かの支えでありたいです。

これからはつらい立場の人を支えるために…

「これからにつなぐ」

あの日からもうすぐ10年を迎えます。あの頃、私たちは5歳。今年の3月12日に中学校を卒業します。あの頃には分かっていなかった当時のこと。成長するにつれて知っていく当時のこと。たくさんの方からの支援のおかげで今を生きていくことができています。本当にありがとうございます。

当時の日常を取り戻すには時間がかかります。震災10年目の去年から今年にかけては、新型コロナウイルスの流行により、いつもとは違う日常を強いられました。ただこれは福島だけでなく、世界の問題です。これからを生きていく中で、いろいろな災害が起こるでしょう。

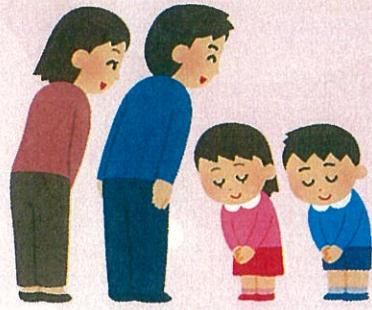
しかし、今度は私たちが一緒につらい立場の人を支えてあげる存在にならなければいけません。他人ごとではなく自分ごととして物事を捉え、日本中が一つとなってつらいことを乗り越えていきましょう。これまでのことをこれからにつないでいくこと。それが私たちの役目です。

差別や偏見なく、多くの大人に自分の悩みや不安、困り感等を受け止めてもらった経験は、子どもたちの成長に大きな影響を与えています。これからも「相手の立場や気持ちに寄り添え合える」地域であってほしいですね。



人権を尊重する地域を支える大人として

子どもは「学校・家庭・地域」の中で育ちます。教師として、家族として、地域住民としての人権意識を定期的にふり返り、広野町の子どもたちが「違いや多様性」を受け入れながら「自分らしく」個性豊かに、明るく前向きに生活できるようにしましょう。



【大人のチェックリスト】※定期的に✓してみましょう

	ふり返り項目	1回目	2回目	3回目
1	子どもを一人の対等な人間として大切にしていますか。			
2	子どもの意見と価値観を尊重するようにしていますか。			
3	子どもの言い分を頭から否定することなく、耳を傾けるようにしていますか。			
4	子どもが自分の考えを言ったり、自分で決定したりする機会を認めていますか。			
5	学力や運動能力等で子どもに優劣をつけることなく、一人一人のよさや努力した過程を見るようにしていますか			
6	子どもが安心して、間違えたり、考えを変えたり、「分かりません」と言えるような雰囲気づくりに努めていますか。			
7	「男の子だから○○しなさい」「女の子だから○○してはいけない」と性別を理由に、言葉を発しないようにしていますか。			
8	いじめは人権侵害であることを理解し、いじめという行為はあってはならないことなのだと毅然とした態度で接していますか。			
9	いかなる場合にでも体罰はしてはいけないと、自分に言い聞かせていますか。			
10	「○○さんの家族って…よね」と子どもに聞こえる場所で、他人の悪口や否定的な言葉を話さないようにしていますか。			
11	子どもが間違えたことや失敗したことを、大勢の人がいる前で指摘しないように心がけていますか。			
12	人権教育の視点から、子どもの手本となるような言葉づかい、行動をとっていますか。			

〔参考資料：人権擁護のためのセルフチェックリスト（全国保育士会）〕

このリーフレットを手にした皆さんへ

広野町で生活する全ての子どもたちが「自己肯定感」を高めながら、これから社会を生き抜いて欲しいと願っています。ただし、この「自己肯定感」には「①条件付きの自己肯定感（I am very good）」と「②条件なしの自己肯定感（I am good enough）」の2種類があります。



①条件付きの自己肯定感…「周囲の人よりも優れているから」「先生に高く評価されるから」などとの比較によってもたらされる自己肯定感。

②条件なしの自己肯定感…「ダメなところもいいところも全部含めて自分が好き」という自己寛容ができている自己肯定感。

①の自己肯定感は、少しでも条件が悪くなると激しく揺らぎ、「自己否定」と入れ替わり、とても不安定な状態になってしまいます。子どもたちには、②の自己肯定感「自分は自分であればいい。誰と比べるわけではなく、ただ自分でいることに価値がある」という気持ちをもって育ってほしいと思います。

東日本大震災から11年をむかえようとする現在、広野町では、住民の帰還や他自治体からの転居、避難先での学校運営、地元での学校再開等、様々な困難な状況に直面してきました。人権に関しても、大震災に起因したいじめ、風評被害、正しい知識に基づいた放射線の知識不足による偏見等の課題が県内外で見られます。それに加え「新型コロナウイルス感染症」拡大における人権侵害等の問題も生じてきました。広野町では住民一人一人が互いを尊重し、他者と協働しながら、個性豊かに生活できる地域を目指していきたいと考えています。学校・家庭・地域それぞれの立場で、人権教育推進にご理解とご協力をいただきながら、リーフレットの積極的な活用をよろしくお願ひいたします。

発行者：広野町教育委員会学校教育課（福島県双葉郡広野町大字下北迫字苗代35／電話：0240-27-4166）

令和3年度 広野町人権教育研究発表会

互いのよさを尊重し、 新たな価値観を創り上げる子どもの育成 (第2年次)

—子どもの「感」でつくる
学校・家庭・地域が一体となった教育課程の創造—



広野町教育委員会

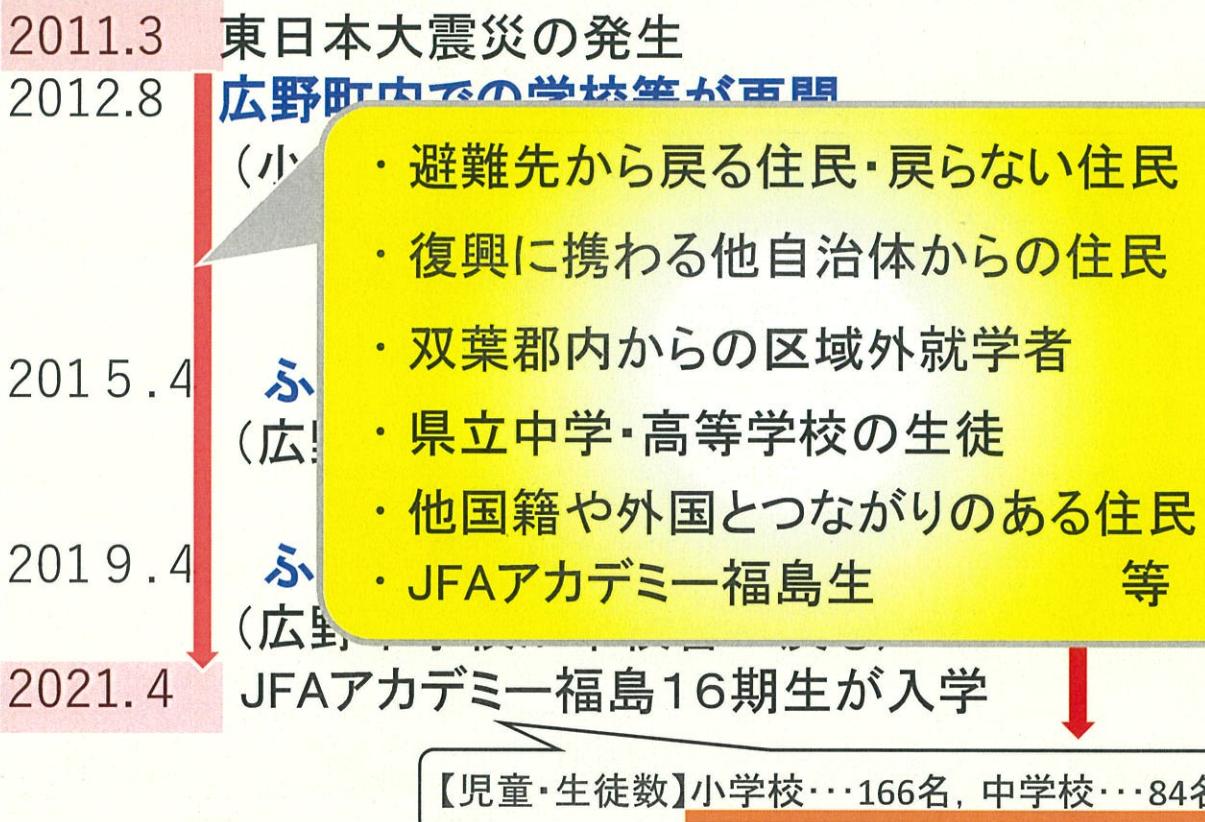
子どもを取り巻く広野町の現状

- 2011.3 東日本大震災の発生
2012.8 広野町内での学校等が再開
(小学校, 中学校, 児童館, 保育所, 幼稚園)
- 【児童・生徒数】小学校…65名, 中学校…31名
- 2015.4 ふたば未来学園高等学校開校
(広野中学校の校舎内で開校)
- 2019.4 ふたば未来学園中学校開校
(広野中学校が本校舎へ戻る)
2021.4 JFAアカデミー福島16期生が入学

増加傾向

【児童・生徒数】小学校…166名, 中学校…84名

子どもを取り巻く広野町の現状



研究主題設定の理由

多様な価値観をもつ住民の増加

子どもの「自己有用感」の向上

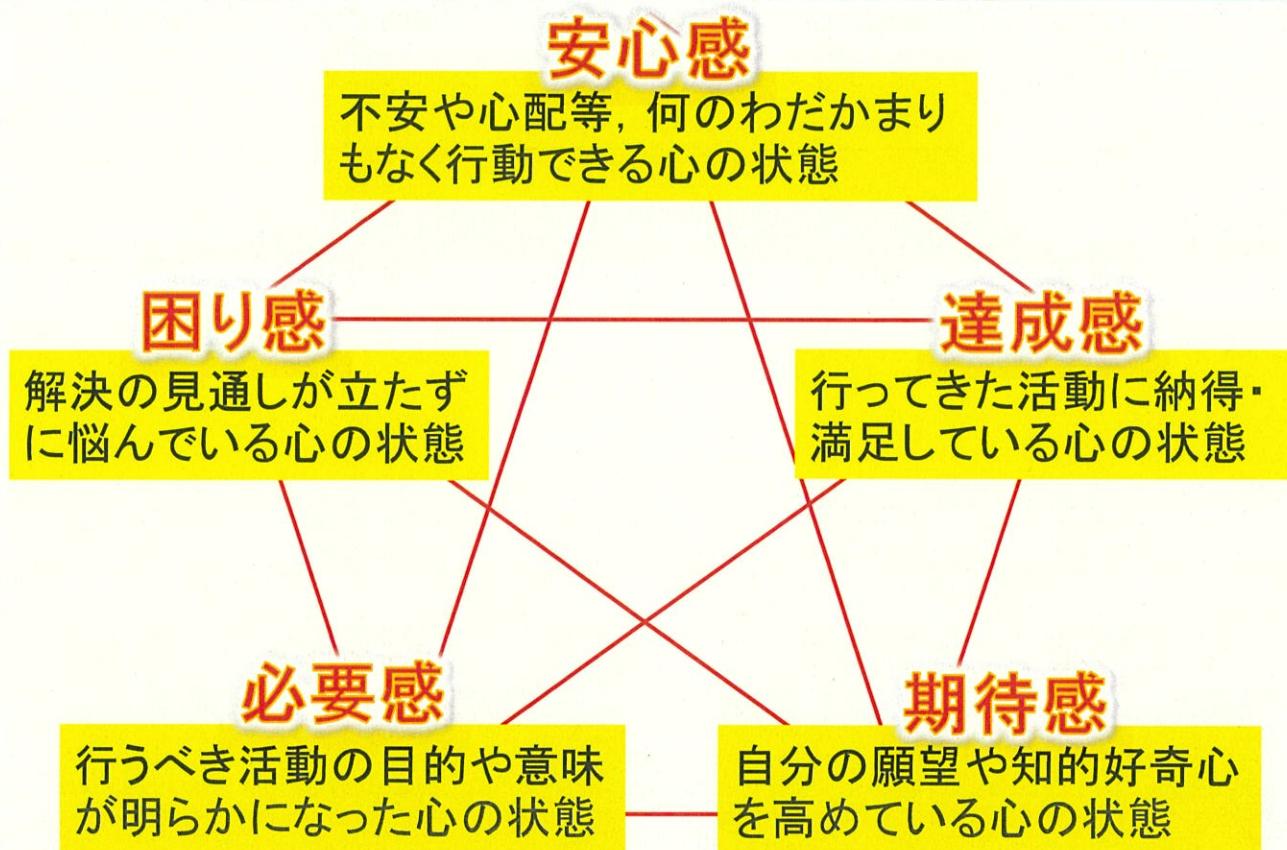
これから育成したい資質・能力

学校・地域との連携

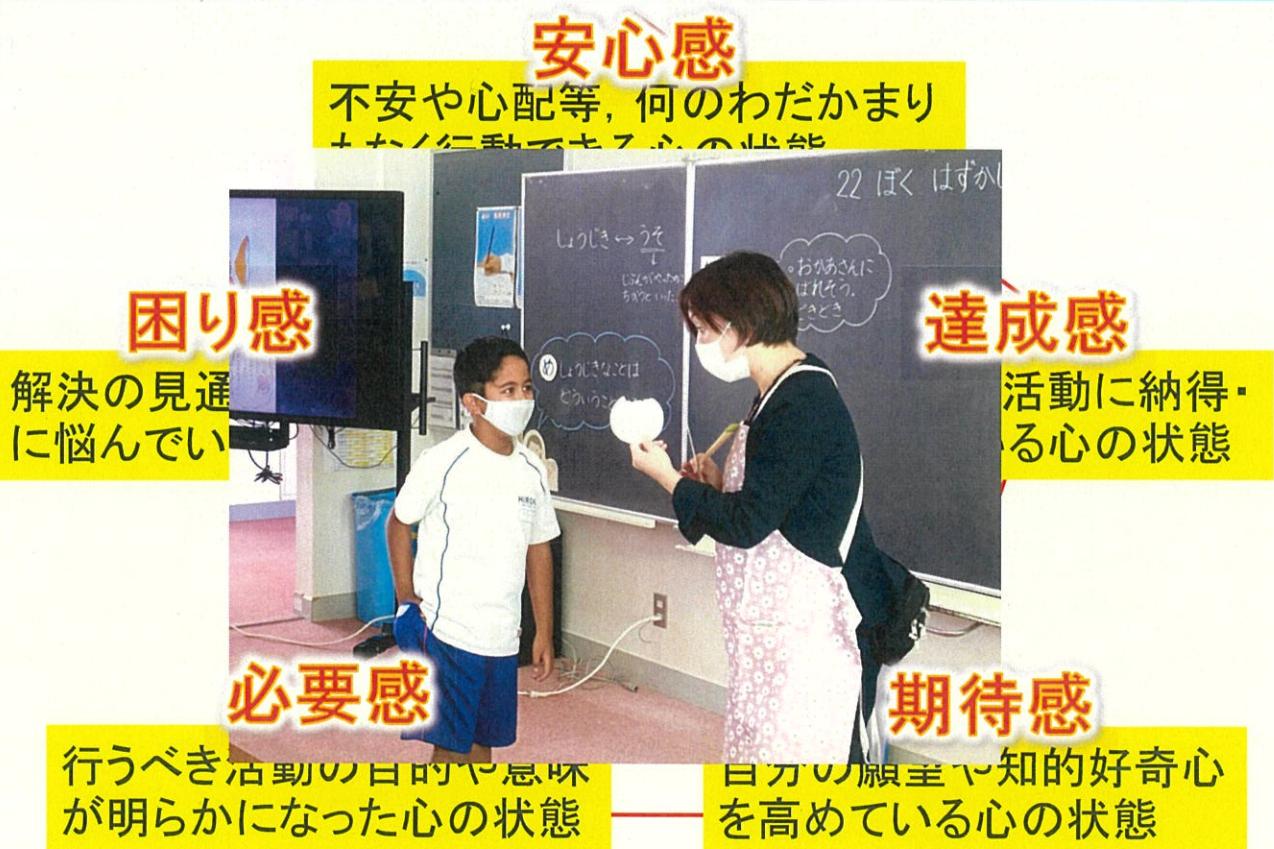
互いのよさを尊重し、
新たな価値観を創り上げる子どもの育成

—子どもの「感」でつくる
学校・家庭・地域が一体となった教育課程の創造—

子どもの「感」でつくる



子どもの「感」でつくる



**互いのよさを尊重し、
新たな価値観を創り上げる子どもの育成
—子どもの「感」でつくる
学校・家庭・地域が一体となった教育課程の創造—**

違いや多様性を受け入れる力



・「知識的側面」の意識化
・家庭・地域との連携

令和3年度 広野町人権教育研究発表会

研究経過報告

**互いのよさを尊重し、
新たな価値観を創り上げる子どもの育成
(第2年次)**

—子どもの「感」でつくる
学校・家庭・地域が一体となった教育課程の創造—



広野町立広野中学校
研修主任 横山 孝

I 研究の概要

1 重点目標

認め合い 学び合い ともに成長しよう

2 目指す生徒像

- 夢をもって根気強く学ぶ生徒
- T P Oに応じた言動がとれる生徒
- 体力向上に励み 命を大切にする生徒

I 研究の概要

3 研究主題

互いのよさを尊重し、
新たな価値観を創り上げる子どもの育成

—子どもの「感」でつくる
学校・家庭・地域が一体となった教育課程の創造—

4 研究仮説

子どもの「感」を組み込んだ授業を展開すれば、子どもの多様な考えに気付き、考えを広げたり深めたりすることができるようになるであろう。また、教科横断的に子どもの「感」を取り入れたカリキュラムを作成し実践することで、新たな価値観を創り上げる子どもを育成できるであろう。

II 研究の内容

- 1 子どもの「感」を意識した授業づくり
- 2 子どもの「感」を高める環境づくり
- 3 人権課題に対応するカリキュラムづくり

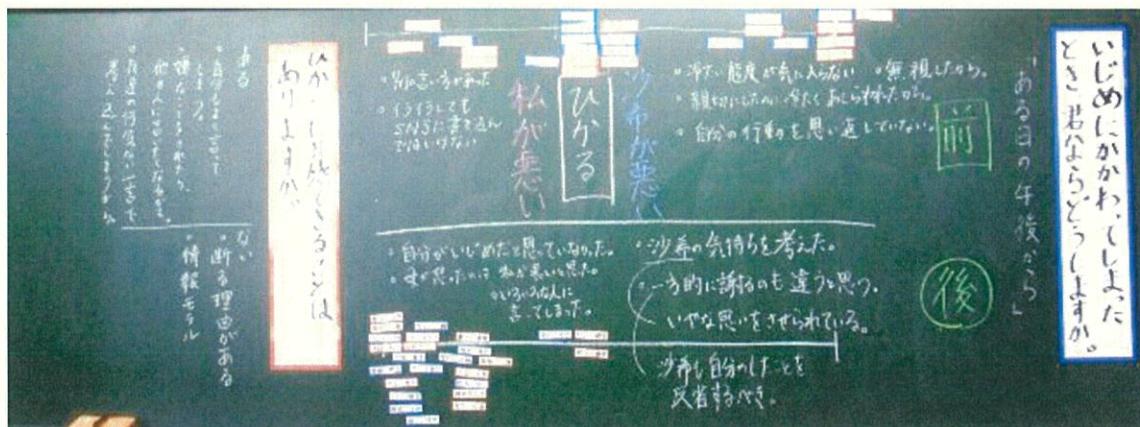
II 研究の内容

1 子どもの「感」を意識した授業づくり

(1) 第3学年道徳科の実践

①多面的な考え方を引き出す中心発問と
多角的な補助発問 【必要感・安心感】

②教材との出会いを通して
自己を見つめ直す場の設定 【困り感・達成感】



II 研究の内容

1 子どもの「感」を意識した授業づくり

(2) 第2学年特別活動の実践

- ① 課題意識の共有、話し合い活動の振り返りと称賛、実践する場の設定【困り感・期待感・達成感】
- ② 互いの意見を大切にしながら、安心して話し合うことができる場の設定【安心感】



II 研究の内容

1 子どもの「感」を意識した授業づくり

(3) 第1学年道徳科の実践

- ① 日常生活に関連する教材を活用した話し合いの工夫
【困り感・必要感】
- ② 多様な考えを引き出す教師の働きかけ
【達成感・安心感】



II 研究の内容

2 子どもの「感」を高める環境づくり

(1) スプリングレクの実施

他人を思いやる心や、下級生・上級生としてそれぞれの役割を考えることで人とのつながりを大切にする心を育てることができた。

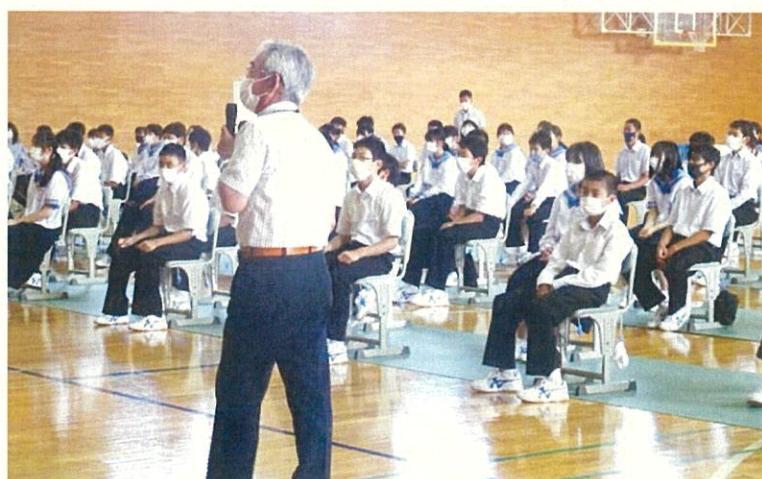


II 研究の内容

2 子どもの「感」を高める環境づくり

(2) 地域人材を活用した「人権教室」の実施

いじめや差別のない社会の構築に向けて、自分として何ができるかを真剣に考えることができた。



II 研究の内容

2 子どもの「感」を高める環境づくり

(3) ボランティア活動の実施

広野小学校の子どもたちと共に活動し、地域の役割を担うことの意義やお互いを尊重することの大切さを学ぶことができた。



II 研究の内容

3 人権課題に対応するカリキュラムづくり

(1) 各教科等における人権教育「知識的側面」の意識化

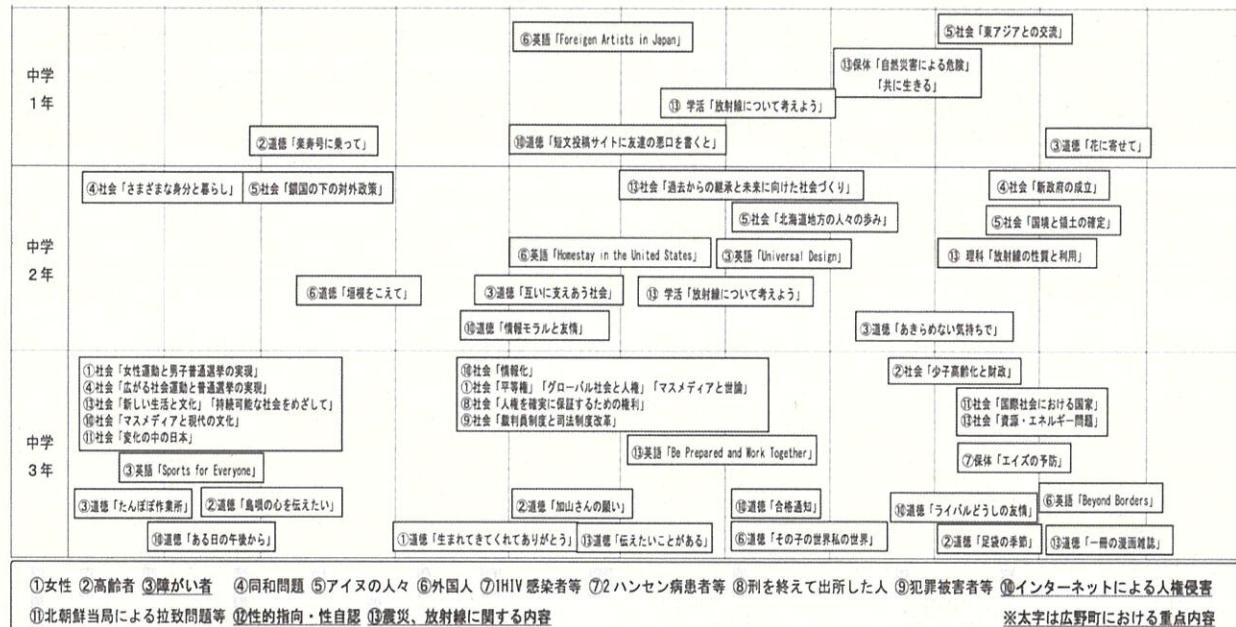
- ① 各学年、各教科等の人権課題にかかる内容を洗い出す。
- ② 各学年の内容を整理し、教科横断的なカリキュラムを作成する。
- ③ 実施時期や学校行事等の関連を考慮し、カリキュラムを見直す。

(2) 家庭や地域を巻き込んだ教育課程の創造

人権教育リーフレット（広野町版）を活用し、家庭や地域と連携を図り、教育課程を創り上げることで、学校を中心にしながら、地域全体に人権教育の理念を浸透させ、人権啓発を図ることができるようとする。

II 研究の内容

3 人権課題に対応するカリキュラムづくり



詳しくは、研究紀要P.40-P.41をご覧ください。

III 研究の成果と課題

1 成果

- 生徒たちは互いに思いやりの気持ちや優しい気持ちをもって接する姿が見られ、自他を大切にする人権意識が高まった。
- 各教科における人権教育の「知識的側面」を意識化することができ、より効果的な指導ができた。

2 課題

- 本研究で高めた人権意識を学校生活を送る中で、どう実践させていくかについて、今後継続して方法を模索していく必要がある。
- 今後も一人一人が互いを大切にして過ごせる学校をつくるために、園小中のみならず、家庭・地域が一体となって人権教育を意識した取り組みを継続して行っていきたい。

人権(感)覚を鍛える教師力・学校力

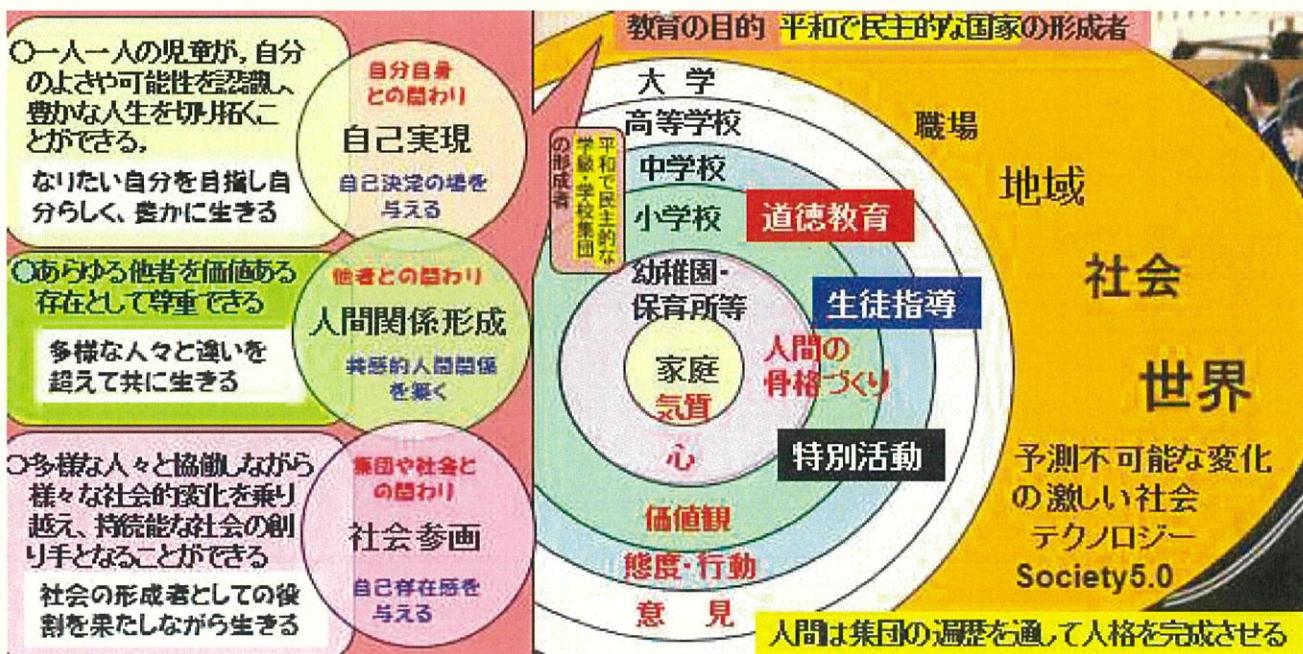
—授業や生活づくりを通して—

はじめに

- ・人権感覚育成の重視は世界的潮流()
- ・5つの「感」の理念
安心感・期待感・困り感・必要感・達成感
- ・本日の授業を参観して

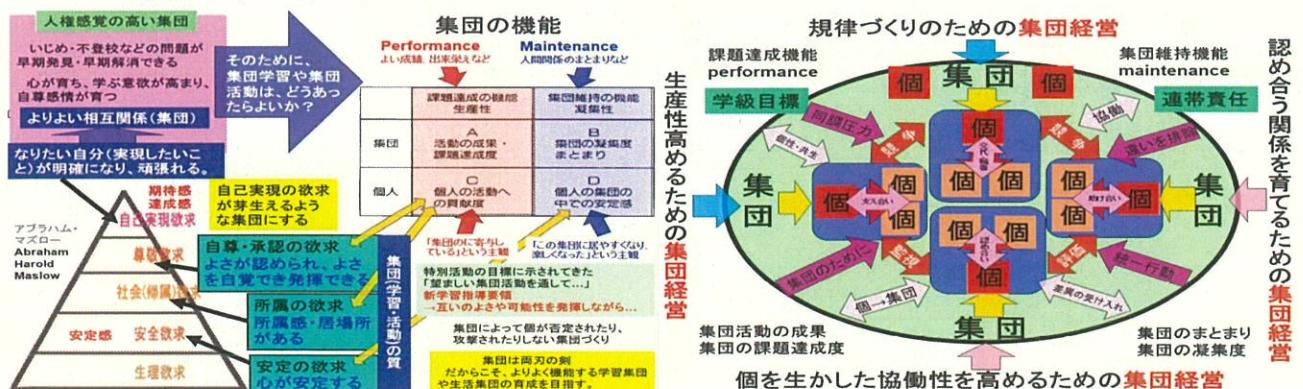


「SDGs (エスディージーズ)」とは、「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。



1. 目指すは全員参加の授業づくり

- ・よりよい人間関係を築き、学力向上につなげる話し合い活動の10か条
- ・互恵的な学び合いに

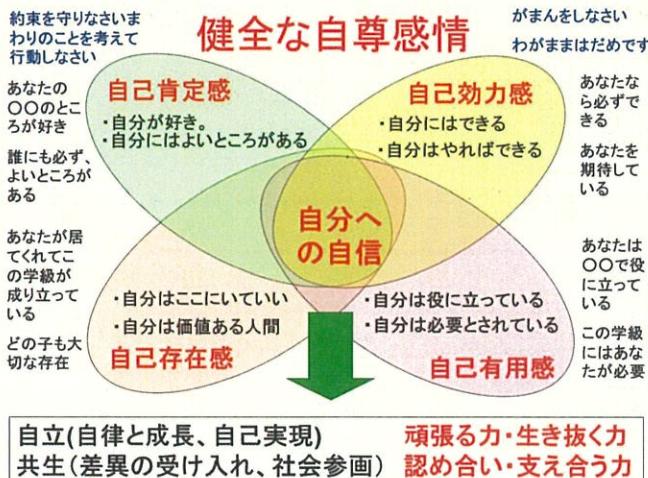


2. 人権感覚が育つ集団の教育力の再構築(特別活動の活用)

- なぜ、「子どもの「感」でつくる…」
なのか。
- 教師力を磨き、よりよい風土
を築く学級経営の5つの心得
- 特別活動
自治的活動
異年齢交流活動など



3. 人権感覚と自尊感情を育てる教師力・学校力



- どの子にも役割がある(子どもたちを信じ、期待する)
- 最後まで「先生」であり続ける
- あやちゃんの卒業式

恕(じょ)

先生 中山 謙さん(ゆずりん)の作品より

子どものことを好きだけではだめだけ
子どものことを好きでなければ、先生にはなれない
いつもニコニコしてただけではだめだけ
心を許し笑えなければ、先生にはなれない
情熱ひとすじ向かうだけではだめだけ
きらめく情熱もでなければ、先生にはなれない
思ったことを話すだけではだめだけ
思いを言葉にできなければ、先生にはなれない
子どものそばを歩くだけではだめだけ
よりそい共に歩けなければ、先生にはなれない
子どもを守りかばうだけではだめだけ
子どものいのち守れなければ、先生にはなれない
信じた道を進むのはつらいことでも
仲間と夢を信じなければ、先生にはなれない
子どものことを好きだけではだめだけ
子どもを愛するあなただから、先生と呼びたい

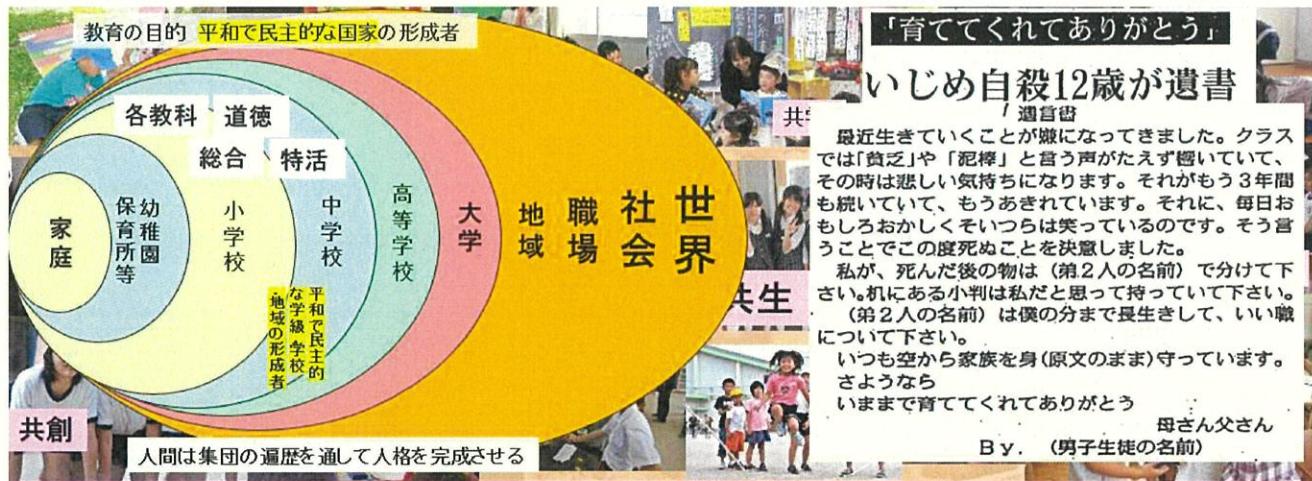
2021.06.11

広野町人権教育講演会

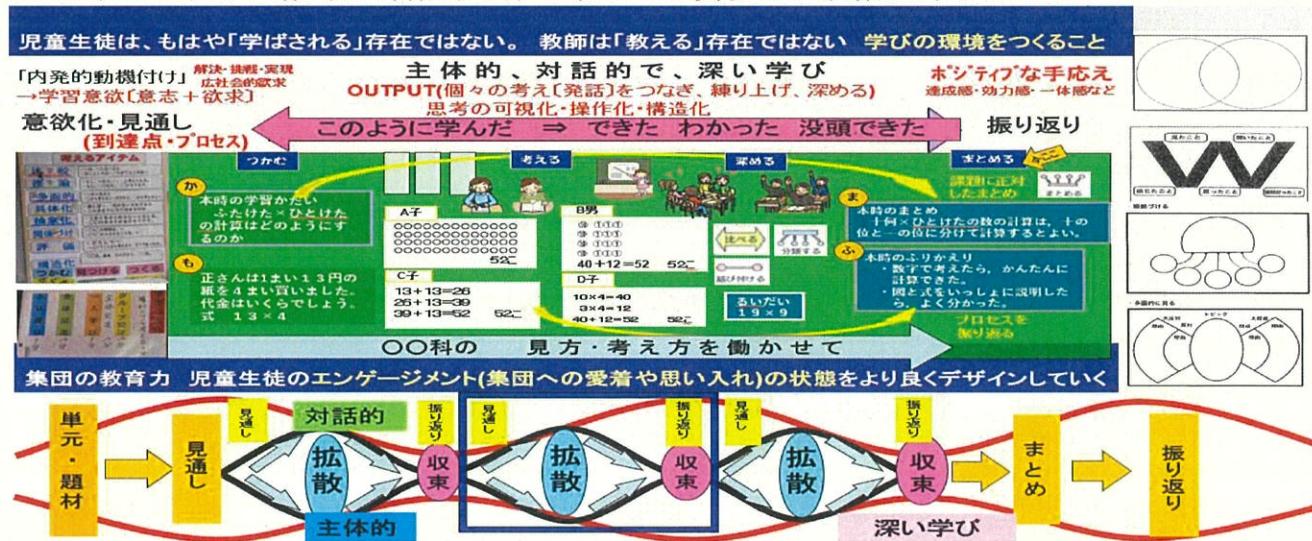
人権(感)覚をはぐくむ家庭や学校の教育力

一違いや多様性を受け入れ、認め合う一

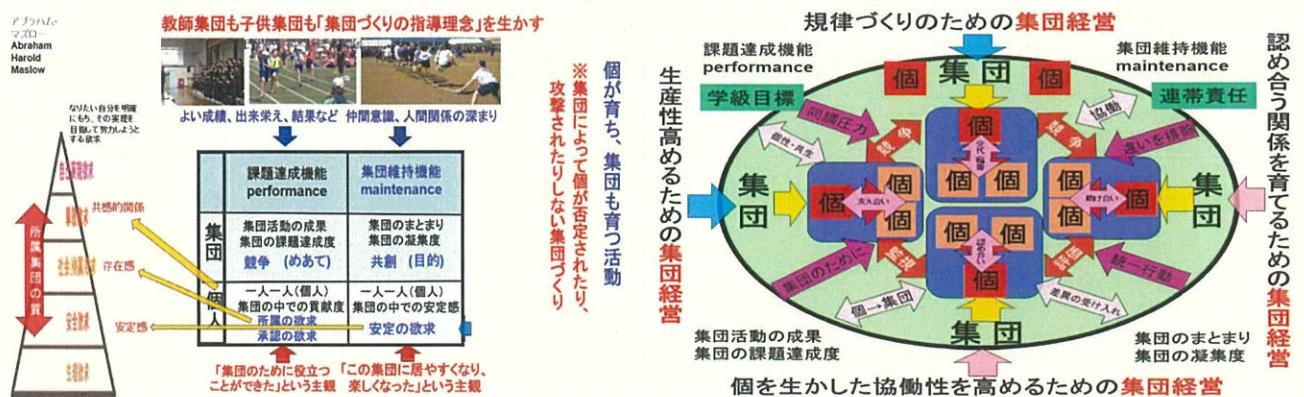
はじめに



1. 求められる主体的・対話的で深い学びと全員参加の授業づくり



2. 人権感覚が育つ集団の教育力の再構築 (安心感を高める環境づくり)



- ・教師力を磨き、よりよい風土を築く学級経営の5つの心得
 - ・特別活動
 - 自治的活動
 - 異年齢交流活動など



3. 特別活動の活用

子供の、子供たちによる、子供たちのためのよりよい学級・学校づくり



4. 人権感覚をもった大人としての生き方の追求

- ・子どもたちを
 - ・最後まで「先生」であり続ける
 - ・あやちゃんの卒業式

恕（じょ）

先 生 中山 謙さん(ゆずりん)の作品より

子どものことを 好きなだけではだめだけど
子どものことを好きでなければ 先生にはなれない
いつもニコニコ してるだけではだめだけど
心を許し 笑えなければ 先生にはなれない
情熱ひとつじ 向かうだけではだめだけど
きらめく情熱 もてなければ 先生にはなれない
思ったことを 話すだけではだめだけど
思いを言葉にできなければ 先生にはなれない
子どものそばを 歩くだけではだめだけど
ヨリソイ 共に歩けなければ 先生にはなれない
子どもを守り かばうだけではだめだけど
子どものいのち 守れなければ 先生にはなれない
信じた道を 進むのはつらいことも
仲間と夢を信じなければ 先生にはなれない
子どものことを 好きなだけではだめだけど
どもを愛するあなただから 先生と呼びたい

國學院大學 杉田 洋

違いや多様性を受け入れ、認め合う児童生徒の育成 —これから時代をたくましく生きていくために—

國學院大學 杉田 洋

はじめに

国連創設75周年(2020年)を迎えて…

桂歌丸さんのひとこと…

神道精神(日本人としての主体性を保持した寛容性と謙虚さ)

人権教育は、全ての教育の基本となるものであり、各学校においては、児童生徒の発達段階に応じ、教育活動全体を通じて創意工夫してこれに取り組まなければならない。

各学校において人権教育を進めるに当たっては、まず、教職員自身が人権尊重の理念を十分認識することが肝要である。その上で、人権に関する知的的理解を深めさせ、人権感覚を身に付けさせる指導を組織的・計画的に進めることにより、児童生徒が、[自分の大切さとともに他の人の大切さを認める]ができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるようになることを目指していくこととなる。

各学校において、このような観点から、人権教育に関わる研修の位置付けを明確化し、これに取り組むことは大変重要である。

人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ] 平成20年3月

学校における人権教育の取組の視点

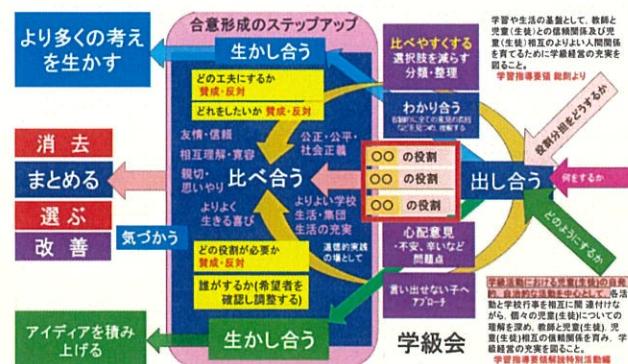
1. 他の人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考え方や気持ちなどがわかるような想像力、共感的につながり理解する力
2. 考えや気持ちを適切かつ豊かに表現し、また、的確に理解することができるよう、伝え合い、わかり合うためのコミュニケーションの能力やそのための技能
3. 自分の要求を一方的に主張するのではなく建設的な手法により他の人との人間関係を調整する能力及び自他の要求を共に満たせる解決方法を見いだしてそれを実現させる能力やそのための技能

1. 日本式カリキュラム(道徳・特別活動)の授業を拝見して

第1学年道徳科「情報モラルと友情」(日和田聰先生)

第2学年学級活動(1)「思いやりきり表をアップデートしよう」(松岡里加子先生)

※「集団決定」から「合意形成(多様性を受け入れ、認め合う)」へ



2. 日本式教育の光りと陰

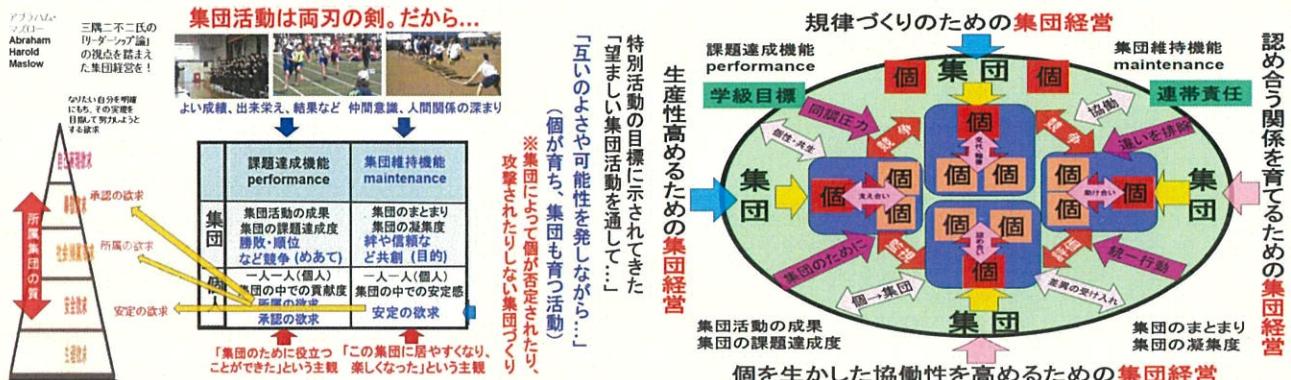
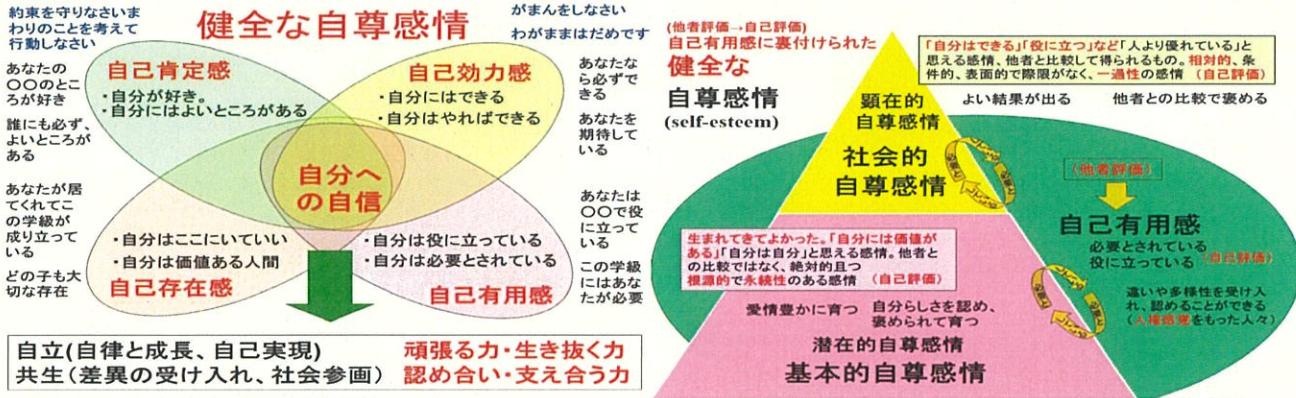
(1) 日本式教育の光 ⇒ 海外が注目する日本式教育

- ・震災時の日本人、パンデミックの中での日本人
- ・協調性、協働性を重視してきた日本式の初等・中等教育は、これから世界の学校教育のモデルになり得る

(2) 日本式教育の陰（日本式の当たり前は、世界から見たら非人権的…）

日本の当たり前を見直そう…

- 比較で褒める
- 競争心を煽って頑張らせる
- 連帯責任で集団をつくる、違いを排除して集団をくる



3. 子どもの『感』（期待感・困り感・必要感・達成感・安心感）」を大切にした取組

- いじめの未然防止（安心感）
 - 児童会・生徒会の取組 いじめ未然防止サミットなど

- 力を合わせてやりとげる（達成感）
 - 異年齢交流活動

- 困り感に寄り添う（困り感への共感⇒意思決定+努力⇒価値付け）

- 全ての子供に居場所を（必要感）

どの子にも役目がある

- 「明日への希望」が人を育てる（期待感）

我が恩師

- あやちゃんの卒業式

つながり

～ 校種や業種を越えて 教科の枠を越えて
学びがつながり続ける 広野町の教育～

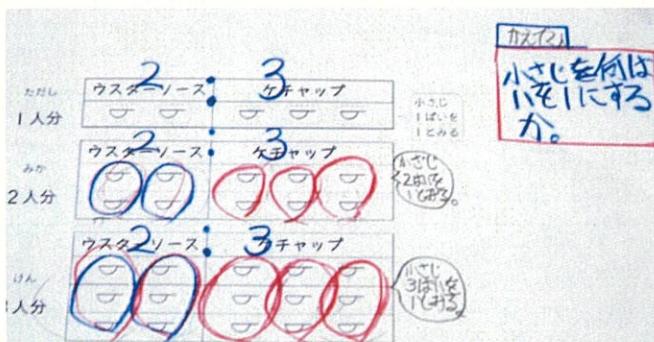
2020年7月2日 広野町教育委員会学校教育課

第1回人権教育授業研究会を終えて

授業者の鈴木貴士先生（第6学年担任）をはじめ、広野小学校の教職員の皆様のご協力もあり、無事に授業研究会を終えることができました。参加された園・小・中学校の先生方の熱心なご協議にも感謝いたします。

ここである一人の子ども（T男）の姿を紹介します。授業も終盤にさしかかり、考え方を全体で共有する場面でのことです。

T男はある友だちの言った発言を聞いて「小さじ2杯を1とみる」「小さじ3杯を1とみる」と自分の考えに書き加えました。もともと何となく、図を○で囲んでいたT男ですが、友だちの「小さじ何杯分かを1とみる」という発言をきっかけに、自分の考えを整理し、等しい比の概念を理解しつつありました。



思考過程が「吹き出し」や「色分け」で整理されたT男のノート

では、どうしてT男はこのような学びができたのでしょうか。要因は複数考えられますが、その一つが「互いの考えを尊重し合う支持的風土」であったことは間違いないありません。

「このやり方って、昨日〇〇くんがやったのと同じじゃない？」
「〇〇さんの考え方を説明すると……」

のような子どもの発言からも分かるように、互いの思考過程を共有しようとする子どもた

ちが多く見られました。鈴木先生の日々の学級経営の賜物です。

また、6年生の教室環境も「人権教育」の観点において参考になる点がありました。

① 背面掲示



かけがえのない一人として、この学級に所属している意識が高まります。形式にこだわらず「子どもたちがこの目標を設定した理由やプロセス」を自覚していることが大切です。

② 黒板の利用の仕方

当たり前のことでありますが、黒板には授業で使用しない情報は不要です。提出物を忘れた子どもの名前を書くなど問題外です。（廣居指導主事より）むしろ、子どもの「つぶやき」や「考え」を積極的に板書に残し、子ども自身の達成感・安心感を高める必要があります。

今後について

授業研究会を経て、今後の展望も見えてきました。「①社会教育、家庭、地域との連携」「②教育計画における具体的な指導プログラムの位置付け」「③意外と少ない教師の具体的な称賛・価値付け」等、次の実行委員会でも協議していきたいと思います。

鈴木先生、本当に疲れ様でした。

つながり

～ 校種や業種を越えて 教科の枠を越えて
学びがつながり続ける 広野町の教育～

2020年7月30日 広野町教育委員会学校教育課

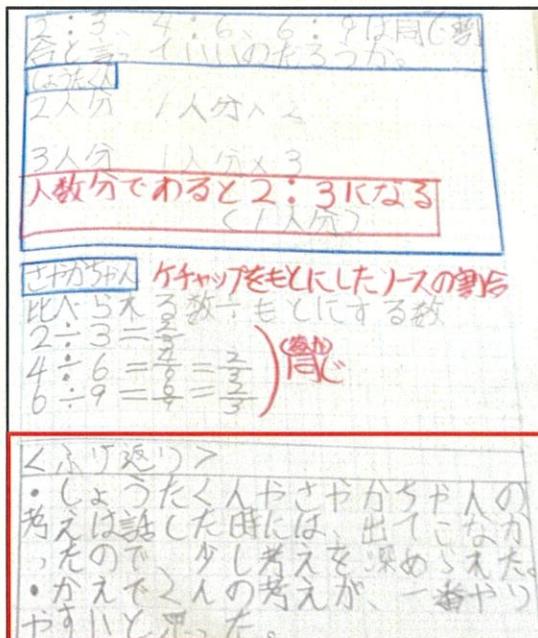
子どもの「振り返り」から授業を振り返る

学習指導要領総則編（平成29年告示）における第3章「第3節教育課程の実施と学習評価」には以下のような記述があります。

（4）児童（生徒）が学習の見通しを立てたり学習したことを見返したりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。

前回の改訂から設けられた記述ですが、今回も引き続き重視されています。子どもが学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次の活動につなげることが、各教科等の指導において特に意識したいことです。

では、先月の授業研究会で子どもたちはどのような「振り返り」を行っていたのか。前回も紹介したT男のノートを見てみましょう。



注目すべきは「振り返り」に友だちの名前が残されていること。自分の考え方（価値観）と異なる他者を受け入れ、それを新たな考え方（価値観）につなげている様子がうかがえます。

広野町人権教育推進計画でも「振り返り」については、以下のように記述しています。

（3）振り返り

ねらいは、獲得した知識・技能、見方・考え方を確認し「学びの意味付け」を行うことにより生徒が学びの成果や考えの変容を確かめて自己の学びを実感し、次の学びにつなぐことをするために、次のような支援を行う。

・発表する内容、振り返る内容を明確にした場の設定

【内容】① 自分の考え方

○ 獲得した知識・技能（わかったこと、できたこと）

○ 獲得した新たな見方・考え方（解決のための視点や考え方）

② みんなで学び合うことのよさ

○ 友だちの考え方のよさ、友だちと話し合うよさ

・学習の満足度や自己有用感等についての自己評価、教師による学びの評価・価値付け

「今日の授業の振り返りを書きましょう」

このような教師の発言は、県内どの校種の、どの教科等の授業でもよく聞かれます。ただ「どんな目的で・どんな視点で・何を」振り返るのかを意識できているのかどうかでその効果は大きく変わってきます。

ノート記述だけで子どもの全て評価することはできませんが、今回紹介したT男くんの記述には「②みんなで学び合うことのよさ」が表れています。おそらく、この授業だけでなく、どんな問題を解決する場面においても他者の考え方を受け入れながら、解決策を導き出す素地は備わっているのだと思います。

【内容①】や次の活動への「期待感」「困り感」も表出できればさらに質は高まっていくでしょう。また、子どもの「振り返り」は授業を省察する上でも役立ちます。授業改善の視点に役立ててみてはいかがでしょうか。

先日学校訪問を行った際に、ある先生から「どんな教育書を読んだらいいでしょうか」とのご相談がありました。ありがとうございました。お時間があるときに手にとってみてください。

つながり

～ 校種や業種を越えて 教科の枠を越えて
学びがつながり続ける 広野町の教育～

2020年9月1日 広野町教育委員会学校教育課

絶えず磨いていきたい教師の「人権感覚」

8月20日(木)には、第1回広野町人権教育総合推進会議が行われました。学校関係者だけではなく、地域住民や保護者の共通理解の下、広野町全体で人権教育を推進していくために開催された会議です。

会議では、今年度の「広野町人権教育推進計画」や11月27日に行われる「人権教育研究発表会」の内容についての協議が行われました。そして、最後に相双教育事務所の廣居亮指導主事より「学校・家庭・地域が連携した人権教育の在り方」について講話をいただきました。

改めて、教職員が子どもたち一人一人の大切さを理解し、かけがえのない個人として接するためには、教職員自身の「人権感覚」を一層磨いていくことが必要なのだと感じました。人権を侵害された子どもが実際にどのように感じるのか「気付く」ことが第一歩です。

学校でたまに目にする場面を、次に例示しました。子ども一人一人の人権を尊重するという観点から、気になることは何でしょうか。先生方で考えてみましょう。(神奈川県教育委員会「人権教育ハンドブック」より一部抜粋)

1 授業において

事例1 先生「みなさん、分かりましたね。
では、次の問題にいきます。」

事例2 先生「この問題は普通できるよね。
できないなら小学校に戻った方がいいね。」

事例3 ある先生は、板書を分かりやすく整理するため、白、赤、黄、青、緑のチョークを使い分けている。

2 朝の会、帰りの会、HRなどにおいて

事例4 先生「このお知らせは必ず親に見せるんだよ。」

事例5 先生（長欠の子どものところで）
「はい、いつものように〇〇さんが欠席ね。」

事例6 ある先生は、宿題や提出物を忘れた子どもの名前を黒板に貼り出している。

3 子どもたちへの対応について

事例7 子ども「〇〇先生！」
先生（生徒を見ずに）
「今忙しいから、後にして。」

事例8 子ども「先生、〇〇さんが保健室に行きました。」
先生「ありがとうございます。保健室の△△先生に任せておけば大丈夫ですよ。」

事例9 先生「男子には青、女子にはピンクの紙を配りますね。」

4 保護者・周囲の方への対応について

事例10 通知表の所見欄に
「人の嫌がる清掃にも自ら進んで取り組んでいます。とてもすばらしいことです。」

事例11 何気ない呼び方で
「給食のおばさん」「交通指導のおじさん」

特に「事例3」や「事例4」は、教師による丁寧な指導や助言のようにも見えますが、子どもの人権を尊重するという観点においては見直す必要がある事例です。各事例の解説は次頁に掲載していますが、再度学校全体で確認してみてはいかがでしょうか。

【各事例の観点について】

事例1 先生「みなさん、分かりましたね。では、次の問題にいきます。」

分からない子どもが「分からない」「迷っている」などと困り感を表出できる状況にありません。これでは分からないまま授業が進んでしまいます。

事例2 先生「この問題は普通できるよね。できないなら小学校に戻った方がいいね。」

「できない」「分からない」と言った子どもが恥をかいてしまう状況にあります。また、校種間の隔たりや他校種を蔑む教師の価値観が表れています。各校種の保育・教育を尊重したいですね。

事例3 ある先生は、板書を分かりやすく整理するため、白、赤、黄、青、緑のチョークを使い分けている。

日本では男性の5%に色覚障害があると言われています。つまり、各クラスに1人程度は色覚障害がある子どもが存在する可能性があります。特に緑系統の黒板に「緑系統・青系統」のチョークの色は見えにくい傾向があります。そのような理由もあり、使用に適したチョークの色は、基本的には白と黄色、場合によっては赤です。(赤系統が見えにくい子どももいますので、赤で文字を書くのは避けた方がいいようです。)

事例4 先生「このお知らせは必ず親に見せるんだよ。」

親と一緒に暮らしていない子どももいます。親のいない子どもはどう感じるのでしょうか。

事例5 先生（長欠の子どものところで）
「はい、いつものように〇〇さんが欠席ね。」

周囲の子どもに誤った固定観念を植え付ける恐れがあります。学校に来られない子どもには、様々な事情があります。冗談にしていいことではありません。

事例6 ある先生は、宿題や提出物を忘れた子どもの名前を黒板に貼り出している。

いつも同じ子どもの名前が張り出されています。マイナス要素で名前が公表された子どもは、自己肯定感がもてず、他の子どもからからかわれる原因にもなり得ます。子どもでは解決できない複雑な家庭の事情があるかもしれません。

事例7 子ども「〇〇先生！」

先生（子どもを見ずに）

「今忙しいから、後にして。」

何か重要な話があるのかもしれません。一大決心をしてきたのかもしれません。そうでなくても顔も見ずにこんなこと言われたらどう感じるでしょうか。まずは、仕事の手を止めて、子どもの表情や様子を見てください。その上で「〇〇なら時間取れるけど、それでもいいかな」と言われるだけでも、子どもは安心しますね。

事例8 子ども「先生、〇〇さんが保健室に行きました。」

先生「ありがとうございます。保健室の◇◇先生に任せておけば大丈夫だよ。」

子どもは学校全体で見ていくものです。保健室は子どもがいつでも心身の悩みを相談できる場所ですが、一人職種の養護教諭だけに任せるとではなく、同僚としてお互いに支え合いながら、みんなが安心できる環境をつくっていきましょう。

事例9 先生「男子には青、女子にはピンクの紙を配りますね。」

性別による誤った固定観念であり「男だから〇〇」「女だから△△」という発言は子どもにも習慣的に刷り込まれてしまいます。

事例10 通知表の所見欄に

「人の嫌がる清掃にも自ら進んで取り組んでいます。とてもすばらしいことです。」

「清掃は人が嫌がること」という誤った固定観念です。その裏には、汚いものを扱うことへの忌避があり、清掃業などを蔑む意識につながる恐れがあります。「自分から汚れている場所を見つけ、進んで清掃に取り組んでいます。」のような所見だと「自己決定」の場面も記述され、人権教育の観点からすると◎な所見の内容になりますね。

事例11 何気ない呼び方で

「給食のおばさん」「交通指導のおじさん」

子どもの使う言葉で、ついつい使っていますか。教職員が使うことで、誤った固定観念が助長されてしまいます。「調理員の〇〇さん（〇〇先生）」「交通指導の〇〇さん（〇〇先生）」と呼ぶのが日ごろお世話になっている方への礼儀です。

つながり

～ 校種や業種を越えて 教科の枠を越えて
学びがつながり続ける 広野町の教育～

2020年10月5日 広野町教育委員会学校教育課

第2回人権教育授業研究会を終えて

授業者の近藤拓実先生をはじめ、広野中学校教職員の皆様のご協力もあり、無事に授業研究会を終えることができました。参加された園・小・中学校の先生方の熱心なご協議にも感謝いたします。

研究協議の中で「外発的な問い」と「内発的な問い」という言葉が何度か聞かれましたが子どもたちの学びを保障する上で、いかに子どもの内面の「問い合わせ」を引き出すことができるかが大きなポイントになってきます。

これは、登場人物の発言を分類したXチャートをグループで共有する場面です。

（「緑」と「紫」、「水色」のカードの分類した位置が異なることに気付いた子どもたち）
A男：ここに水色が来るのは何となく分かるけど、緑と紫がここに来る理由は？
B男：（しばらく沈黙・・・）これ微妙なラインなんだよな。

（タイマーが鳴る。グループでの話し合い終了）
B男：（自分で画面を切り替え、友だちの画面を見ながら）俺も緑は最初ここにおっていたんだよな。紫はやっぱり真ん中になっている・・・。

A男はB男にどうして理由を聞いたのでしょうか。そしてB男は話し合いが終わっても他の友だちの画面が気になったのでしょうか。それは、思考過程が可視化され、子どもの問い合わせが焦点化されたことが大きな要因です。

可視化されることにより、考えが比較されその違いが明確になり、本当に解決したい（協議すべき）ポイントが明確になった、これを象徴するようなA男とB男の姿でした。

そして、教師は子どもの「微妙だ、迷う」という思いを見取り、全体的にばらつきのあった緑のカードについて「緑についてちょっと説明できるかい？」と全体に問い合わせました。

教師が描くプラン通りに進めば苦労しませんが、子どもの思い（困り感も含めて）に寄り添い、指導過程に生かしていくことで、子どもの「必要感」や「期待感」は高まります。

B男がつぶやいた「微妙なライン」。「緑」や「紫」のカードの分類に悩む子どもの考えを表させ、一つの発言を多面的・多角的に考えることが、道徳的な判断力を育てることにつながっていくのだろうと思いました。

「一つの授業で見えてきたことを共有し、さらに自分の授業実践で試行錯誤する」

鈴木先生や近藤先生の授業実践を礎に、子どもたちと授業を創り上げていく。その日常の営みを繰り返すことにより、研究が深化していきます。各学校園において大切にしたいことを再度見直し、町全体で「子どもの『感』でつくる教育活動」を推進したいものです。



Xチャートを活用し子どもの思考を可視化した近藤先生の板書

つながり

～校種や業種を越えて 教科の枠を越えて
学びがつながり続ける 広野町の教育～

2020年10月16日 広野町教育委員会学校教育課

「りょうまくんのサラダ」の意義を考える

こんだてしょうかい
(献立紹介)

ひろのじゅう
広野小の2年生が考えたよ!

～りょうまくんのサラダ～

【作り方】

- きゅうりをたて半分に切り、ななめ薄切りにする。
鍋で1分くらいゆでてから、水にとる。水気をよくしぼる。
- 春雨をゆでてから、水でよく洗う。食べやすい長さに切る。
- ハムは細切りにする。①・②は冷蔵庫で冷やしておく。
- きゅうり・春雨・ハムに米酢をふりかける。マヨネーズ・しお・こしょうを混ぜて味を調える。

* 給食では、きゅうりを半量にして、ゆでたキャベツを混ぜました。

令和2年度 給食だより(7・8月号)より

栄養教諭の岡田先生をはじめ、給食共同調理場の皆様のお陰で、広野町ではおいしい学校給食を食べることができます。また、地場産物の活用率も上昇傾向にあり、広野町ならではの給食が提供されています。とてもありがとうございます。今回は、その中でも以前提供された「りょうまくんのサラダ」の意義について考えてみたいと思います。

① 学習指導要領(H29)総則編より

第3章教育課程の編成及び実施
第1節 小学校教育の基本と教育課程の役割
各学校において「創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する」ことが示されており、教育課程編成における学校の主体性を發揮する必要性が強調されている。(一部抜粋)

学習指導要領改訂の際「学校教育で行っていることが実社会で本当に役立っているのか」「実社会と学校教育をつなぐ配慮はされているのか」という議論が何度も行われました。「りょうまくんのサラダ」は生活科の学びと子どもの実生活をつなげるすばらしい実践だと感じました。生活科に限らず、子どもの生活場面や地域社会、今後の社会情勢等と各教科等の学びが少しでもつながれば、そこで学んだことがより「使えるもの」となります。

授業だけで完結するような学びではなく、自分の生活や地域社会等にまでつながるような教育課程を創造する必要があるでしょう。

② 人権教育推進の視点から

「自分の考えたことが認められた」「やってよかった」りょうまくんはそう思えたはずです。「達成感」は勿論ですが「次はこんなこともできそうだな」という「期待感」を高めることにもつながっているように思います。

「りょうまくんばかりする」「りょうまくんはいいわね」のような声もありそうですが、他の場面で他の子どもたちが、同じように活躍できる場を設定できれば問題ありません。

目の前の子どもたち一人一人が、この地域にとってかけがえのない存在ですから、是非一人一人にスポットが当たる瞬間を意図的に創っていきたいものです。

今回は、学校給食との連携を図った教育活動について紹介しましたが、学校の特色を創造するためには、学級や学年、校種や業種の枠を越えて連携協力することがますます重要になります。今後ともご指導・ご支援よろしくお願ひいたします。

つながり

～ 校種や業種を越えて 教科の枠を越えて
学びがつながり続ける 広野町の教育～

2020年12月11日 広野町教育委員会学校教育課

令和3年度教育課程の編成に向けて

皆様のご協力により、11月27日の人権教育研究発表会を無事に終えることができました。アンケートの中には「安心感に満ちあふれた学級づくりができていて、これまでの丁寧な積み重ねを感じました」「互いの意見を尊重しながら自分を表現する姿に感心しました」といったご意見もあり、先生方のこれまでの実践の成果が子どもの姿に現れていたのだと感じました。ありがとうございました。

令和3年度人権教育推進に向けて、各学校園において「成果と課題」を共有し、次年度の研究に向けて動き出したいと考えています。

また、同時に令和3年度の教育課程の編成も始まります。今回は新学習指導要領が今年度より全面実施された小学校のカリキュラムを例に、編成上の留意点について共有したいと思います。

① 知識と生活との結び付きや教科等横断的な視点を重視する

第3章教育課程の編成及び実施

第2節 教育課程の編成

3 教育課程の編成における共通的事項

(3) ④ 合科的・関連的な指導

工 児童の実態等を考慮し、指導の効果を高めるため、児童の発達の段階や指導内容の関連性等を踏まえつつ、合科的・関連的な指導を進めること。（「指導要領解説総則編」より）

各教科書会社においてもこれらの点は留意されていますが、どの学校でも一般的に使えるような内容（教材や指導計画等）なので、広野町の子どもの実態に合わせた微調整が必要です。また、教科によって教科書会社が異なることによる弊害も起きてきます。例えば、小学4年の国語科と社会科のカリキュラム。これらを教科等横断の視点で見ると、微妙なずれに気付きます。

【別紙参照】

国語科「伝統工芸のよさを伝えよう」（光村図書）は10月に行われますが、社会科「すずりをつくるまち・石巻市雄勝町」（東京書籍）は1月に行われます。問題は「単元の配列がこれでいいのか」ということです。子ども目線で考えたときに、社会科で十分学習を深めた後に、その学びを生かして国語科の目標に合わせた「書く活動」を位置付けた方がより大きな学習効果が得られるように思います。

教科書会社の作成した指導計画案を参考にしながらも、子どもの実態や興味関心、他教科等のつながりを意識して、「目の前の子どもに合った教育課程を創造する」という教師の気概が必要になってきます。

② 人権教育推進の成果を反映させる

今年度先生方は、子どもの「感」を意識しながら、授業や単元をつくってきたと思います。教育課程編成の際には「それによって資質・能力が育成されたか」「次年度につながる点はどこなのか」しっかりと評価しながら、子どもの「感」でつくってきた教育課程を整理していただければと思います。それが人権教育推進指定地域「広野モデル」のカリキュラムになっていきます。

学習指導要領改訂の初年度は、どの学校においてもその趣旨に合った対応が求められます。その趣旨を十分理解し、すぐに対応できる学校ほど、その後の学校経営が優位に進められます。学級経営や教科経営も然りです。

同じような実践を行うにしても、先取りして行うことでの価値は大きくなります。時代の流れ・教育界の動向に迅速に対応し、子どもにとって最適な学習環境ができる広野町であってほしいと願っています。

つながり

～ 校種や業種を越えて 教科の枠を越えて
学びがつながり続ける 広野町の教育～

2020年12月23日 広野町教育委員会学校教育課

ふるさと創造学サミットの子どもたちの姿から

「ふるさと創造学」を目指す子ども像ってどんな姿でしょうか。最近のふるさと創造学サミットでの双葉郡内各校の発表を見ていて、次のようなことを思う場面がありました。

「子どもたちの発表が、大人によってつくられ過ぎていないか？」

「子どもたちに、発表の“目的意識”と“相手意識”は明確になっているか？」

「発表を行うまでに、子どもたちの“自己決定”はどの程度行われたのか？」

どの学校の発表にも創意工夫が見られます
が、各校の発表を見ていて「誰のアイデアで
誰が責任をもって行っている発表なのか」と
いう疑問をもつことが多かったのです。

しかし、今年の広野小・中学校の子どもたちの発表を見ていると、子どもたち自身が試行錯誤を重ねたプロセスが見え、その中で高めたふるさとへの思いが溢れています。その中で印象に残った子どもたちの言葉を紹介したいと思います。

①「広野町振興公社の〇〇さんは……」

関わった人の固有名詞があれだけたくさん
出てくるということは、単発的な関わりではなく、何度も関わりをもっている証拠です。

「振興公社の人」「役場の人」という表現でも
発表は成り立ちますが、しっかりと学習に
関わってくれる方々と固有名詞で呼び合える関係性をつくりながら、子どもたちと単元を構
想されている様子が伺えます。子どもたちの
キャリア形成にもつながる、とてもすばらしい
実践だと感じました。



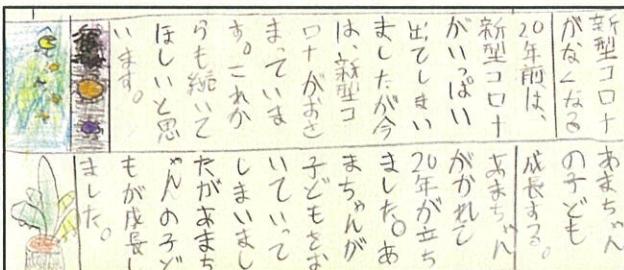
振興公社の中津さんの話に耳を傾ける中学3年生

②「広野に興味をもってもらえてよかったです」

発表を終えた子どもに「発表してみてどう
だった？」と聞いてみました。すると「〇〇小
学校の人たちが、広野のバナナを食べてみたい
と言ってくれた。興味をもってもらえてよ
かったです」と話していました。きっと「自分たち
が調べた広野をもっと広めたい」という目的
をもって発表にのぞんでいたのでしょう。

一方で、ある子どもは「少し声が小さくて
聞いている人に聞こえにくい所もあったかな」とも話していました。「何も言われなくて
も自分の発表を振り返る〇〇さんはすてきだ
ね」と思わず声をかけ（価値付け）ました。

この発表がゴールではありませんので、発
表後に再度自分を振り返り、次の学びにつな
げるプロセスを大切にしてほしいと思いま
す。発表を通して「子どもたちが何を考え、
その中でどんな資質・能力が育成されている
のか」ここは評価していくところです。



小学4年生が作成した「未来新聞」より一部抜粋

年度当初にバナナ（の木）を「あまちゃん」と命名し栽培した活動は、とても思い出に残
るものだったのでしょう。彼は「今年の総合
で何やってきたの」と聞かれたたら、間違
なく自分の学びを物語れると思います。

創造学サミットは、発表の出来栄えを競う
ものではありません。このような子どもなら
ではの感性を働かせ、自己決定を重ねながら
探究するプロセスの一部が「ふるさと創造学
サミット」であってほしいと願っています。

コロナ禍での活動制限がある中、企画・運
営ありがとうございました。先生方もお体を
ご自愛いただき、よいお年をお迎えください。



家庭や地域で何を行えばいいの？ －広野町「人権教育開発事業」－

【知識的側面】

- ・自由、責任、正義、個人の尊厳、権利、義務等の諸概念についての知識
- ・人権の歴史や現状、法令、人権侵害を予防したり、解決したりするための知識

【価値的・態度的側面】

- ・自他の良さを見つけること
- ・可能性を感じる態度
- ・多様性を認める心情
- ・自分の行為に対する責任感
- ・正義や自由、公正公平の実現に向かう意欲や態度

【技能的側面】

- ・他者と人間関係をつくる力
- ・偏見や差別を見極める力
- ・相手を尊重しながら自分の気持ちや考えを表現する力
- ・他者の心の痛みを自分の経験と結びつけて推し量る力

人権教育の指導方法等の在り方について〔第3次とりまとめ〕より
(文部科学省 平成20年3月)

- たえまない愛情・受容的態度
 - ・言葉かけ
 - ・しつけ
 - ・立ち振る舞い
- 授業・学校行事・研修等への積極的なかかわり
- 学校への情報提供・活動支援 等

- 日常的なあいさつや見守り
- 豊かな体験活動等の提供と活動への支援
- 学校行事等へのかかわり
- 専門的アドバイスや外部講師による講話や演習 等



- 個性を尊重した指導と支援
- 望ましい人間関係づくりへの配慮
- 道徳教育の充実
- 自主性や主体性を重視した指導と支援
- 子どもの「感」でつくる教育活動



地 域

- 同学年、異学年、異校種、地域の人と学ぶ活動の工夫
- 安全で安心できる環境づくり
- ボランティアやキャリア教育等における体験活動の充実 等

2021年2月 広野町教育委員会

「広野町人権教育リーフレット（2021年2月作成）」より

令和2年度より、文部科学省より「人権教育開発事業」を受けています。子ども一人一人を尊重した「温かな言葉かけ」や子どもの行いに感謝する「さりげない言葉かけ」の積み重ねが、子どもたちの自己肯定感を高めていきます。リーフレットを参考にしながら、住民一人一人が協力して、子どもの人権が保障される広野町にしていきましょう。



広野町クリーンアップ作戦（6月6日）より

【編集後記】

クリーンアップ作戦にお家の方と参加するお子さんの姿がありました。「やってみてどうだった？」と聞くと、「少しゴミが減らせてよかった！」と話していました。地域への「所属感」、自分が役に立っている「自己有用感」が子どもたちを大きく育てるのだと感じました。教育委員会事務局では、これまで以上に教育行政や学校現場を「見える化」し、家庭・地域と協働した教育環境を整備していきます。ご意見やご感想等ございましたら、いつでもお寄せください。

（文責：学校教育課 渡邊 智幸）

つながり

～ 校種や業種を越えて 教科の枠を越えて
学びがつながり続ける 広野町の教育～

2021年4月8日 広野町教育委員会学校教育課

この時期だからできること・この時期にしかできないこと

年度当初から学校の屋台骨として活躍する小学校高学年の子どもたち、広野中生としての自覚をもって町内外からの新入生を迎える中学2年・3年の子どもたち。入学式の凛とした上級生の姿から新年度への決意を感じられ、嬉しくなりました。

これらの上級生のように誰しも新学期のスタートに胸を躍らせ、新しい先生との出会いや新たに始まる生活を楽しみにしているはずです。この新鮮な出会いの時期だからこそ、この時期に行うべきことの一つに「学級・学年経営のビジョンの共有」があります。

子どもたちは、この1年間でどんな学級にしたいと思っているのでしょうか。教師は、子どもたちのどんな姿を大切にしたいと思っているのでしょうか。4月は、子どもたちと目指す学級像について話し合い、その方向性を共有していく上で、とても大切な時期です。

ある先生は「この時期は、とにかく褒める。そして、駄目なことは具体的に指導する」と話していました。例えば・・・

「相手の目を見ながら、立ち止まってあいさつする〇〇さんはすばらしいね。」「〇〇さんの発表もすばらしいけど、それをうなづきながらしっかり聴いている□□くんもすごいと思うな。」「〇〇くんは、先生に言われなくても自分からロッカーを整理整頓しているよ。」「□□さんは、1人で重い荷物をもっていた●●くんを手伝っていたぞ。やさしいね。」「□□くんは、次の授業の準備をしてから休み時間に入っていたよ。自分で考えて行動してすばらしいね。」「入学式での・・・のような姿は、高学年としてとても大事な姿だね」

等

そして「褒める時は全体で、指導するときは個別に！」を原則にしていました。発達段階に応じて、指導の仕方は異なりますが、共通しているのは「子どもの何気ない行動を教師が価値付け、学級で1年間大切にしたいことを共有する」ということです。学習規律や学び方等を含めて、「教師がどんな姿を大事にしているのか」を子どもの姿を通して示しつつ、やってはいけないこと（友だちの人権を侵害する行為や命を無くすような危険な行為等）については各学級で共有し、その行為については厳しく指導する必要があります。学級開き・授業開きの最初が肝心です。

広野町の子どもは、全国に比べ「自己肯定感」や「自己有用感」が低い傾向にあります。安心して学べる環境を整えながら、教師が一人一人の子どものよさに目を向け、それを積極的に伝えることで 気持ちよく今年1年をスタートさせたいですね。



「広野中学校は、生徒一人一人が主役となるすばらしい学校です・・・(略)」
(4月6日 広野中学校入学式「歓迎のこば」鈴木陸斗君のあいさつより)

子どもたちが今後過ごすであろう人生において、年齢を重ねれば重ねるほど、自分が主役だと思える瞬間はそれほど多くはないはずです。学校教育、特に義務教育段階だからこそ、子ども一人一人が自分の役割を自覚し、誰もがどこかで主役になれる場面・スポットライトが当たる場面を多く創出していただけますよう、ご指導よろしくお願いします。

つながり

～ 校種や業種を越えて 教科の枠を越えて
学びがつながり続ける 広野町の教育～

2021年7月6日 広野町教育委員会学校教育課

違いや多様性を受け入れられる子どもを育む

6月11日の学校訪問では、普段の子どもたちの姿を参観させていただきありがとうございました。杉田先生や長期研究生（埼玉県の教員）の皆様も、落ち着いた子どもたちの様子や先生方の授業、学級掲示等に感心されていました。今後の研究を推進していくためにも、いくつか共有すべきことを確認します。

【子どもたちの姿から】

- 学級全体が落ち着いている、他者の考えを聴こうとする素地ができるいる学級が多い。（これまでの指導の賜物ですね！）
- 子どもたちが安心して授業に取り組むことができている。

授業実施が困難な学級を全国各地で参観している杉田先生からすると、広野町の子どもたちの教室での姿は十分過ぎるほど親和的で落ち着いた様子に見えたようです。一方で、次のようなご指摘もありました。

- 学級集団が「家族」のようであり、個々が主張をしなくとも、何となく物事が進みがちである。(単学級の影響もある?)
- 学級集団における決定（問題解決）のプロセスが一部の子どもに委ねられている。
- 学級集団が「多様性」が尊重されにくく間違いや違いに対して、寛容ではない。

「多様性を尊重すること」は一人一人がもつ人権を尊重することにもつながります。固定された集団の中で成長していく広野の子どもたちだからこそ、学級集団で困り感を抱える子どもや障がいのある子ども、肌の色や宗教に違いをもつ子どもに寄り添う教師の姿勢から、人権を尊重することや弱者の立場を理解することの意義を感じてほしいと思います。

では、そのためにどうすればよいのでしょうか。すぐにでもできそうな方法として下記のような工夫が考えられます。

① 学級における工夫例

- 一人一人が自分の考えをもち、互いに主張し合うことで合意形成する場を設ける。
(各教科、道徳、特別活動、総合 等)
- 特別な配慮をする子どもの立場を尊重しながら活動する場を設ける。
- 教師が子どもの発言やつぶやきに傾聴しそこに隠された思いを捉えようとする。等
(教師自身が子どもの多様性を尊重する)

② 教育課程上の工夫例

- 異年齢集団における活動や外部人材を活用した活動を取り入れる。
- 幼小連携や小中連携を通して、異校種の子どもに関わる機会を設ける。
- 地域の方々や多くの保護者と関わる活動を取り入れる。
等

現在広野町で育った子どもたちは、20年後、どんな社会で生きるのでしょうか。おそらく、世界との距離がより近くなり、多くの立場の方々と協働しながら、解決困難な問題と対峙する必要がある社会になるでしょう。

そのときに、自分の考えを主張し(表現し)、互いの多様性(違い)を受け入れながら問題に向き合う力は必ず必要になってきます。人権教育を軸に、全教育課程を通して、その素地を育んでいきたいと考えております。各校園での日々の教育(保育)
実践の充実に向けて、
ご協力よろしくお願ひ
いたします。

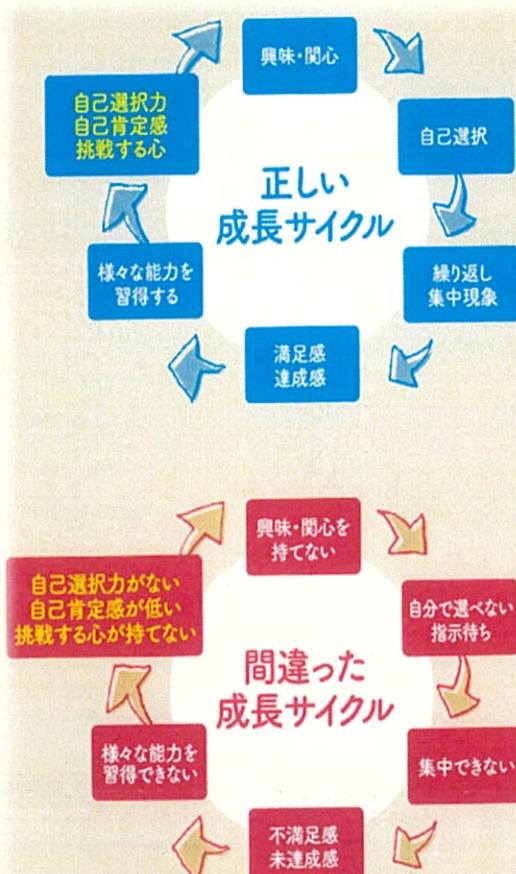


大切にしたい“正しい”「成長サイクル」

全国的に「自己肯定感」や「自己有用感」がもてず、自信をもって次の行動に踏み出せない子どもたちが多い現状にあります。質問紙調査によると、広野町もその傾向があります。

この1つの要因として、わたしたち大人の関わり方が影響している場合があります。本来、子どもは今置かれている環境の中を**興味・関心**をもって散策します。そこから、自分で**活動を選択**し、**集中して繰り返します**。上達することにより、**満足感と達成感**を得ます。そしてどんどん活動が上手になり、生きていくのに必要な**様々な能力を習得**します。その一連のプロセスを経ることで「自分でできた」という**自己肯定感**の芽が育ちます。だからこそ、次の新しいことに挑戦する心をもって、新たな成長サイクルがまわり始めます。

成長のサイクルがまわり始めれば、大人が何もしなくとも、子どもはぐんぐん成長していきます。しかし、まわりの大人がこのサイクルを止めている場合があるのです。以下のような状況、子どもたちにありませんか？



「安全のためにきれいに片付けられてしまい、興味・関心を喚起するものがまわりに存在しない」「自分で選択する状況になく、大人に与えられた活動だけをさせられる」「集中しているものを中断され、違うものを与えられる。大人が代わりにやってしまう」 等

「危ないから片付けてあげよう」「一人でやっているから、一緒にやってあげよう」「おそらくできないだろうから代わりにやってあげよう」・・・子どもによかれと思って行う「〇〇してあげよう！」の行動が、子どもの成長を邪魔してしまいます。子ども一人一人が他者に依存しきることなく、自信をもって行動できる広野町であってほしいと願っています。

〈藤崎達宏著「【0～3歳までの実践版】モンテッソーリ教育で才能をぐんぐん伸ばす」（三笠書房）より一部引用〉



広野小3年「いのちのつながり」の授業より

【編集後記】

小学校3年生の道徳「いのちのつながり」の授業を参観させていただきました。授業の後半に「先生も3年前に命がつなぎました。すごくうれしかったね」と話すと、あるお子さんが「お父さんも私にそう言ってくれたよ」と嬉しそうに話していました。両親に限らず、おじいさんやおばあさん、家族に愛されているという実感や地域の方々に見守られている実感をもつことは、どのお子さんにも大切なことです。

子どもたちのよりよい成長のために「子どもに手をかけ過ぎずに、しっかりと目をかける、声をかける」そんな基本姿勢を大人が大切にしたいものです。

（文責：学校教育課 渡邊 智幸）

つながり

～ 校種や業種を越えて 教科の枠を越えて
学びがつながり続ける 広野町の教育～

2021年10月29日 広野町教育委員会学校教育課

絶えず磨いていきたい教師の「人権感覚」

8月23日（月）には、第1回広野町人権教育総合推進会議が行われました。今年度の「広野町人権教育推進計画」や11月19日に行われる「人権教育研究発表会」の内容についての協議が行われました。そして、最後に相双教育事務所の小澤指導主事より「学校・家庭・地域が連携した人権教育の在り方」について講話をいただき、特に子どもたちの「性的指向・性自認」の現状について理解を深めることができました。

また、9月22日（水）には授業研究会を実施し、広野小学校の保苅先生に授業をご提供いただきました。これらの事業を通して、改めて、教職員が子どもたち一人一人の大切さを理解し、かけがえのない個人として接するためには、教職員自身の「人権感覚」を一層磨いていくことが必要なのだと感じました。人権を侵害された子どもが実際にどのように感じるのか「気付く」ことが第一歩です。

学校でたまに目にする場面を、次に例示しました。子ども一人一人の人権を尊重するという観点から、気になることは何でしょうか。先生方で考えてみましょう。（「広野町学校支援だより第13号」を一部改訂）

1 授業において

事例1 先生「みなさん、分かりましたね。
では、次の問題にいきます。」

事例2 先生「この問題は普通できるよね。
できないなら小学校に戻った方がいいね。」

事例3 ある先生は、板書を分かりやすく整理するため、白、赤、黄、青、緑のチョークを使い分けている。

2 朝の会、帰りの会、HRなどにおいて

事例4 先生「このお知らせは必ず親に見せるんだよ。」

事例5 先生（長欠の子どものところで）
「はい、いつものように〇〇さんが欠席ね。」

事例6 ある先生は、宿題や提出物を忘れた子どもの名前を黒板に貼り出している。

3 子どもたちへの対応について

事例7 子ども「〇〇先生！」
先生（生徒を見ずに）
「今忙しいから、後にして。」

事例8 子ども「先生、〇〇さんが保健室に行きました。」
先生「ありがとうございます。保健室の△△先生に任せておけば大丈夫ですよ。」

事例9 先生「男子には青、女子にはピンクの紙を配りますね。」

4 保護者・周囲の方への対応について

事例10 通知表の所見欄に
「人の嫌がる清掃にも自ら進んで取り組んでいます。とてもすばらしいことです。」

事例11 何気ない呼び方で
「給食のおばさん」「交通指導のおじさん」

特に「事例3」や「事例4」は、教師による丁寧な指導や助言のように見えますが、子どもの人権を尊重するという観点においては見直す必要がある事例です。「もしかしてこの場合は…」と立ち止まることが大切です。各事例の解説は次頁に掲載しましたが、再度学校全体で確認してみてはいかがでしょうか。

自分はどうだろう…



【各事例の観点について】

事例1 先生「みなさん、分かりましたね。では、次の問題にいきます。」

分からない子どもが「分からない」「迷っている」などと困り感を表出できる状況にありません。これでは分からないまま授業が進んでしまいます。

事例2 先生「この問題は普通できるよね。できないなら小学校に戻った方がいいね。」

「できない」「分からない」と言った子どもが恥をかいてしまう状況にあります。また、校種間の隔たりや他校種を蔑む教師の価値観が表れています。各校種の保育・教育を尊重したいですね。

事例3 ある先生は、板書を分かりやすく整理するため、白、赤、黄、青、緑のチョークを使い分けている。

日本では男性の5%に色覚障害があると言われています。つまり、各クラスに1人程度は色覚障害がある子どもが存在する可能性があります。特に緑系統の黒板に「緑系統・青系統」のチョークの色は見えにくい傾向があります。そのような理由もあり、使用に適したチョークの色は、基本的には白と黄色、場合によっては赤です。(赤系統が見えにくい子どももいますので、赤で文字を書くのは避けた方がいいようです。)

事例4 先生「このお知らせは必ず親に見せるんだよ。」

親と一緒に暮らしていない子どももいます。親のいない子どもはどう感じるのでしょうか。

事例5 先生（長欠の子どものところで）
「はい、いつものように〇〇さんが欠席ね。」

周囲の子どもに誤った固定観念を植え付ける恐れがあります。学校に来られない子どもには、様々な事情があります。冗談にしていいことではありません。

事例6 ある先生は、宿題や提出物を忘れた子どもの名前を黒板に貼り出している。

いつも同じ子どもの名前が張り出されていませんか。マイナス要素で名前が公表された子どもは、自己肯定感がもてず、他の子どもからからかわれる原因にもなり得ます。子どもでは解決できない複雑な家庭の事情があるかもしれません。

事例7 子ども「〇〇先生！」

先生（子どもを見ずに）

「今忙しいから、後にして。」

何か重要な話があるのかもしれません。一大決心をしてきたのかもしれません。そうでなくても顔も見ずにこんなこと言われたらどう感じるでしょうか。まずは、仕事の手を止めて、子どもの表情や様子を見てください。その上で「〇〇なら時間取れるけど、それでもいいかな」と言われるだけでも、子どもは安心しますね。

事例8 子ども「先生、〇〇さんが保健室に行きました。」

先生「ありがとうございます。保健室の◇◇先生に任せておけば大丈夫だよ。」

子どもは学校全体で見ていくものです。保健室は子どもがいつでも心身の悩みを相談できる場所ですが、一人職種の養護教諭だけに任せるとではなく、同僚としてお互いに支え合いながら、みんなが安心できる環境をつくっていきましょう。

事例9 先生「男子には青、女子にはピンクの紙を配りますね。」

性別による誤った固定観念であり「男だから〇〇」「女だから◇◇」という発言は子どもにも習慣的に刷り込まれます。戸籍上の性別に悩む子どもにとって心を刺激する発言にもなりかねません。

事例10 通知表の所見欄に
「人の嫌がる清掃にも自ら進んで取り組んでいます。とてもすばらしいことです。」

「清掃は人が嫌がること」という誤った固定観念です。その裏には、汚いものを扱うことへの忌避があり、清掃業などを蔑む意識につながる恐れがあります。「自分から汚れている場所を見つけ、進んで清掃に取り組んでいます」のような所見だと「自己決定」の場面も記述され、人権教育の観点からすると◎な所見の内容になりますね。

事例11 何気ない呼び方で

「給食のおばさん」「交通指導のおじさん」

子どもの使う言葉で、ついつい使っていませんか。教職員が使うことで、誤った固定観念が助長されてしまいます。「調理員の〇〇さん（〇〇先生）」「交通指導の〇〇さん（〇〇先生）」と呼ぶのが日ごろお世話になっている方への礼儀です。

つながり

～ 校種や業種を越えて 教科の枠を越えて

学びがつながり続ける 広野町の教育～

2021年12月9日 広野町教育委員会学校教育課

人権教育研究発表会

広野こども園・広野小学校・広野中学校の先生方のご協力により、無事に広野町人権教育研究発表会を終えることができました。特に授業者の日和田先生、松岡先生はじめ、サポートいただいた中学校の教職員の皆様には心より感謝申し上げます。

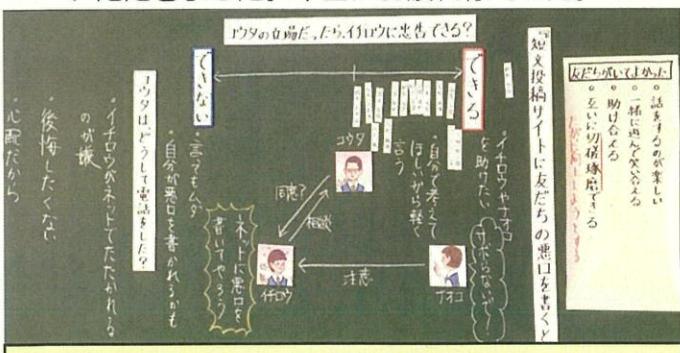
広野中学校からいわき駅までの車内で杉田先生からこんなことを言われました。

今日の道徳は、積極的に発言できない生徒にも寄り添いながら、考えを引き出そうとしていたよね。頭では分かっていても、発言できる生徒と教師だけで授業を進めることが多い、一部の子どもたちが置いていかれる。でも1年B組の先生は、発言できない生徒を大切にしていたね。

学級会も、特別支援学級の生徒もグループでしっかり発言できていたし、周りの友だちも最後まで発言に傾聴している。これも簡単なようで、なかなかできないことだよね。ひどい場合は、先生すらその意識がない人もいる。

二人とも事後研でいろいろと言われたかもしれないし、まだまだ改善する点はあるかもしれない。でも、教員として本当に大切なことを二人の先生はしっかりと意識できているから、これからが楽しみだと思うよ。(杉田先生の話より一部抜粋)

私も救われる思いがしました。広野町の先生方の実践が外部の教育関係者に高く評価されることは、とてもうれしいことです。日和田先生と松岡先生の授業やこれまでの授業づくりの経過から、多くのことを考える機会をいただきました。本当に疲れ様でした。



授業場面を想定し、当日まで何度も再考した板書

お世話になりました



親和的な集団の中でそれぞれが考えを主張し合えた話し合い

先日、県の学力向上会議が緊急で行われ、福島県「頑張る学校応援プラン」の施策1「学力向上に責任を果たす」の内容を基に、全国学力学習状況調査とふくしま学力調査の結果分析と授業改善の方向について協議する場がありました。会議に参加した先生方からは、

「先生が話し過ぎて、子どもが思考（試行）する時間が十分でない。教室における沈黙も、子どもにとっては思考（試行）している最中なのに、教師が待てない。もっと、子ども一人一人が何をしようとしているのかを考え、子どもに任せる時間を確保しないと授業は改善していかない」

「授業の導入で子どもの思いや願いを引き出し、めあてにつなげたい。黒板にめあては書くが、子どもに共有されていない授業も散見される」

「振り返りの時間が十分確保されていない。算数・数学に限らず、自分自身の理解と学習過程を振り返る時間がないから、次の学びや子どもの自信につながらない」等（グループ協議より）

私自身も自分の授業実践を振り返りながら協議に参加していました。調査対象となる教科（国語科、算数・数学科）だけの問題ではありません。質問紙調査からも学校や町全体で、また各教科等で取り組むべき課題も明らかです。今年度の各種調査結果について分析し「〇〇さんがこうなるといいよね」と子ども一人一人を想像しながら、次年度の教育課程を編成していただくようお願いします。